

棟高南八幡街道遺跡

— 宅地分譲に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

2014

ケイアイスター不動産株式会社
高崎市教育委員会
有限会社 高澤考古学研究所

目次

例言・凡例・目次

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡	2
IV 基本堆積土層	4
V 調査の成果	6
VI 総括	20
写真図版	
参考文献・抄録	

挿図・表目次

第1図	周辺遺跡図 (1/25,000)	3
第2図	遺跡位置図 (1/2,500)	4
第3図	基本堆積土層 柱状図・写真	4
第4図	遺跡全体図 (1/200)	5
第5図	1号住居 平・断面図 掘り方平面図 (1/60) カマド 平・断面図 (1/30) 出土遺物図 (1/3)	6
第6図	2号住居 平・断面図 (1/60) カマド 平・断面図 (1/30) 出土遺物図 (1/3)	7
第7図	2号住居 掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/4)	8
第8図	3号住居 平・断面図 (1/60)	8
第9図	3号住居 カマド 平・断面図 (1/30) 掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/4)	9
第10図	3号住居 出土遺物図	10
第11図	4号住居 平・断面図・掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図	11
第12図	5号住居 平・断面図 (1/60)	12
第13図	5号住居 柱穴断面図 (1/60) 東カマド 平・断面図・エレベーション図 (1/30)	13
第14図	5号住居 北カマド 平・断面図 (1/30) 掘り方平面図・エレベーション図 (1/60)	14
第15図	5号住居 出土遺物図	15
第16図	5号住居 出土遺物図	16
第17図	6号住居 平・断面図・ピット断面図 (1/60)	17
第18図	土坑 平・断面図 (1/60)	18
第19図	土坑 平・断面図 (1/60)	19
第20図	7号土坑 出土遺物図 (1/3)	19
第21図	1号溝状遺構 平・断面図 (1/60)	20
第1表	1号住居遺物観察表	6
第2表	2号住居遺物観察表	8
第3表	3号住居遺物観察表	10
第4表	4号住居遺物観察表	11
第5表	5号住居遺物観察表	16
第6表	土坑計測表	19
第7表	7号土坑遺物観察表	19

写真図版

PL1:空撮 PL2:調査写真 PL3:調査写真 PL4:調査写真 PL5:調査写真 PL6:調査写真
PL7:調査写真 PL8:出土遺物写真 PL9:出土遺物写真

例 言

- 1 本書は、群馬県高崎市棟高町字南八幡街道 126 番地 1～4、127 番 2、3 に所在する「棟高南八幡街道遺跡」（高崎市遺跡調査番号 572）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
- 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、ケイアイスター不動産株式会社様の費用負担によって行われた。
- 4 発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
- 5 調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課 田口 一郎・神澤 久幸・田辺 芳昭
有限会社 高澤考古学研究所 澤田 福宏
- 6 発掘調査は、平成 25 年 8 月 22 日から平成 25 年 10 月 3 日までの期間で実施した。調査面積は 285.49m²である。
- 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田が行った。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
- 8 基準・水準点測量及び遺構・遺物平面図測量はタナカ設計に委託した。
- 9 空中撮影は加藤空撮に委託した。
- 10 遺構及び遺物撮影は、澤田が行った。
- 11 発掘調査及び整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
秋山 文男・樺沢 礼子・小林 貴子・小和瀬 深夏・澤田 美枝子・澤田 恵美・住谷 次男・関口 弘子・関根 折夫・滝原 忠男・森田 恵子・蓬田 保伯・渡 明秀
- 12 発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の機関に協力を賜った。（敬称略、50 音順）
ケイアイスター不動産株式会社 山下工業株式会社
- 13 発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡 例

- 1 遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標 IX 系を使用した。
- 2 土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 3 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
- 4 掲載図の縮尺は、各キャプション及び各図に示した通りである。
- 5 遺物実測図の縮尺は、各キャプションに示した通りである。
- 6 掲載図中に使用した断面図において、使用面は太線で表現した。
- 7 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
As-C …………… 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」
Hr-FA …………… 6 世紀初頭降下「榛名二ツ岳火山灰」
As-B …………… 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」
As-A …………… 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

I 調査に至る経緯

平成25年5月、ケイアイスター不動産株式会社（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地造成予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地周辺が奈良～平安時代に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため試掘調査による確認を実施し、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年6月4日付けで土地所有者の有限会社川野鉄工所の川野一紀氏より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年6月13日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳平安時代集落跡の遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、道路予定地に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社高澤考古学研究所に委託して実施することとなり、平成25年8月13日付けで高崎市長・事業者・高澤考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成25年8月13日付けで事業者と高澤考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II 調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約45cm下であることが確認されている為、重機にて表土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘通り、古墳時代及び奈良時代の住居跡及び土坑等を検出し、調査区南西部にて平安時代以降の溝状遺構を確認した。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。検出された遺物は必要に応じて座標を与え、平面図及びエレベーション図を作成し、写真記録を所得しながら調査を行った。写真は35mm小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの2種類のフィルムを使用し、1010万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量は光波測量機を使用し作成した。住居使用面での調査が終了した後、ラジコンヘリコプターを使用し空中撮影を実施した。その後、住居掘り方調査を行った。平成25年9月30日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け、重機による埋め戻し作業を行い同年10月3日に現地調査を終了した。

- 8月22日 現場調査開始準備
- 8月24日 調査区測り出し作業
- 8月26日 コンクリートカッターを導入し、調査区一部のコンクリートの除去用意
- 8月27日 重機により表土除去作業開始
- 8月28日 重機による表土除去作業及びダンプによる廃土及びコンクリート移動作業
- 8月29日 作業員動員 遺構確認作業開始
- 9月2日 遺構確認作業 1、2、3、4号住居検出
- 9月3日 遺構確認作業及び各遺構掘り下げ作業開始
- 9月24日 光波測量機により各遺構平面測量及び遺物計測作業
- 9月26日 各遺構掘り下げ作業終了 遺構清掃作業及び空撮準備
- 9月27日 ラジコンヘリコプターによる空撮
- 9月30日 各住居の掘り方調査開始 高崎市教育委員会による発掘作業完了確認
- 10月1日 各住居の掘り方調査終了 光波測量機により各遺構の平面測量
- 10月3日 基本堆積土層確認の為の深掘り作業 重機による埋め戻し作業及び現場撤収作業 現地調査終了

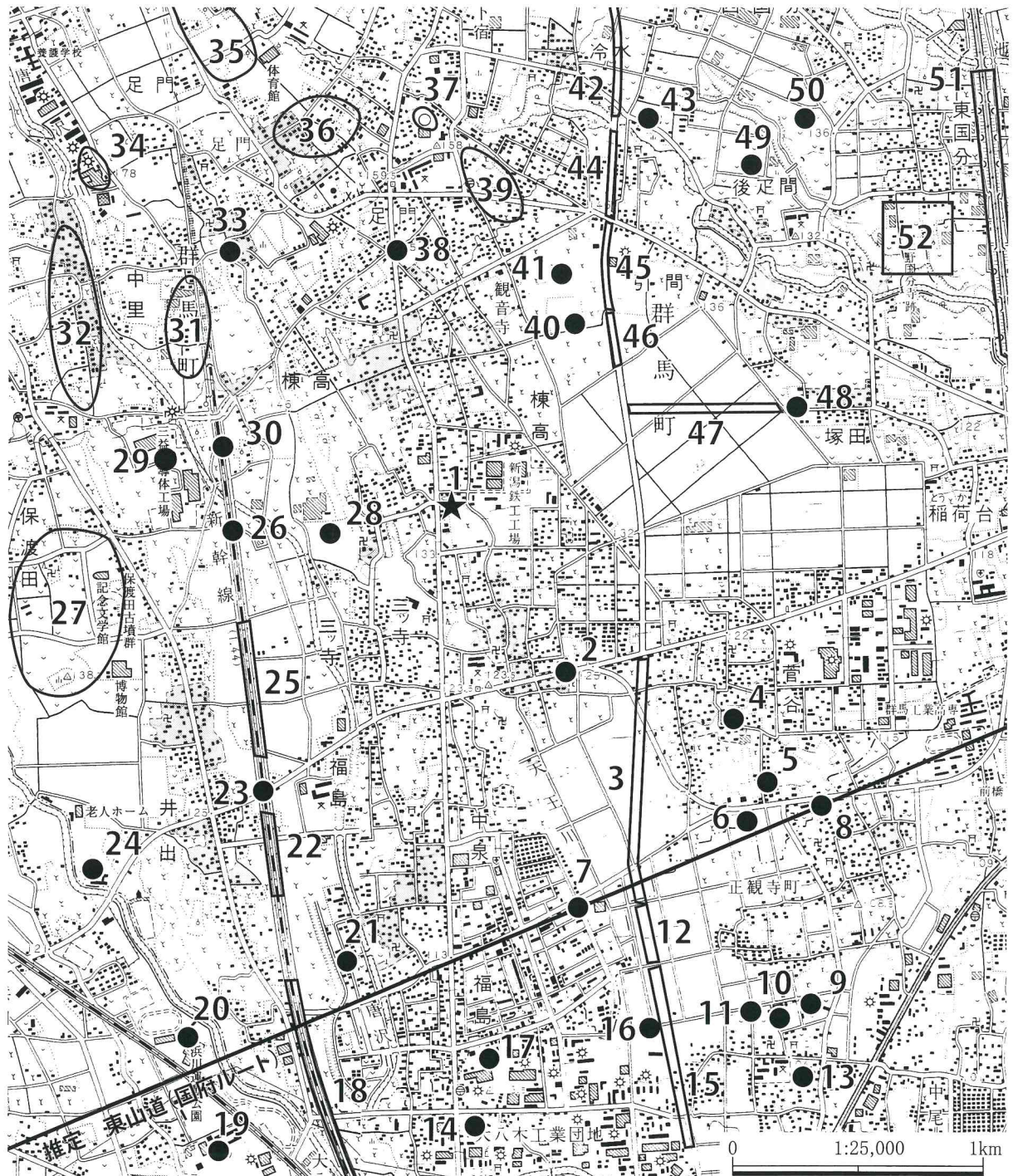
Ⅲ 遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。棟高南八幡街道遺跡は、高崎市市街地の北方向、県道10号線と県道25号線の交差点三ツ寺の信号から北約650m位置し、高崎市棟高町字南八幡街道に存在する。本遺跡付近は、榛名山南東に形成された相馬ヶ原扇状地の扇端部にあり、北西から南東に向い緩傾斜している。扇状地南部は八幡川、牛池川、染谷川、天王川、唐沢川等の小河川が侵食谷と自然堤防状の带状微高地を発達させ、複雑な地形を形成して。本遺跡は、天王川と中島川に挟まれた幅約350m程の带状微高地にあり、標高は134.6mである。

周辺遺跡としては縄文時代前期から生活の痕跡が確認されている。前期から中期の遺跡として西浦北遺跡(21)、上野国分僧寺・尼寺中間遺跡(51)、大八木箱田池遺跡(17)があり、後期の遺跡として敷石住居が検出された小八木志志貝戸遺跡(15)がある。弥生時代中期後半になると熊野堂遺跡(18)、雨壺遺跡(14)のように集落が徐々に増加し、後期後半においては小規模な集落が多く存在するようになる。西浦北遺跡(21)、井出村東遺跡(22)、西三社免遺跡(46)、熊野堂遺跡(18)、正観寺遺跡群(11)等があげられる。古墳時代においては前代以上に集落の増加が認められ、小八木遺跡(14)、井出村東遺跡(22)、三ツ寺Ⅱ遺跡(25)、三ツ寺Ⅲ遺跡(26)、棟高遺跡群1(40)、棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡(41)、正観寺遺跡群(11)等では多くの住居跡が検出されている。また、三ツ寺Ⅰ遺跡(23)では豪族居館が検出され、隣接して保渡田古墳群(26)が存在している。榛名山二ツ岳形成期における火山災害復興後の古墳時代後期から終末期になると、本遺跡から北西約1.4kmに毘沙門古墳群(31)、屋敷古墳群(32)、北東約1.5kmには北寝保窪古墳群が構築られ、標高150m付近より高い位置では、数多くの群集墳が形成されるようになる。奈良・平安時代にかけても遺跡は増加する傾向にあり、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡(51)、熊野堂遺跡(18)では数多くの住居跡が検出されている。また、本遺跡の南1.7kmには推定東山道が東西に走行し、国府推定地が南東約3kmに存在している。生産遺構としては同道遺跡(24)、御布呂遺跡(20)、芦田貝戸遺跡(19)、熊野堂遺跡(18)、小八木遺跡(14)、菅谷石塚遺跡(3)等でAs-C及びHr-FA、Hr-FPの火山噴出物により被災し埋没した古墳時代の水田跡が検出されており、西浦北遺跡(21)、棟高遺跡群1(40)、棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡(41)、西国府新田遺跡(42)、冷水村東遺跡(44)では畝跡が検出されている。平安時代には、As-Bにより埋没した水田跡である小八木遺跡(14)、芦田貝戸遺跡(19)、御布呂遺跡(20)、正観寺遺跡群(11)、井出村東遺跡(22)、三ツ寺Ⅱ遺跡(25)等も集落に隣接した低地より検出され、前代から引き続き活発な生産活動が営まれた様子が伺える。このように、本遺跡周辺は縄文時代以降、各時代における遺跡が多く分布する地域として周知されている。



高崎市役所からの遠景



1. 本遺跡
2. 棟高東弥三郎街道遺跡
3. 菅谷石塚遺跡
4. 菅谷城跡
5. 菅谷遺跡群
6. 正観寺諏訪廻Ⅰ遺跡
7. 福島飛地遺跡（推定東山道）
8. 高貝戸遺跡（推定東山道）
9. 正観寺八木境遺跡
10. 中川遺跡
11. 正観寺遺跡群
12. 正観寺西原遺跡
13. 小八木宅地添遺跡
14. 兩壺遺跡
15. 小八木志志貝戸遺跡
16. オトウカ山古墳
17. 大八木箱田池遺跡
18. 熊野堂遺跡
19. 芦田貝戸遺跡
20. 御布呂遺跡
21. 西浦北遺跡
22. 井出村東遺跡
23. 三ツ寺Ⅰ遺跡
24. 同道遺跡
25. 三ツ寺Ⅱ遺跡
26. 三ツ寺Ⅲ遺跡
27. 保渡田古墳群
28. 堤上遺跡
29. 保渡田東遺跡
30. 保渡田遺跡
31. 毘沙門古墳群
32. 屋敷古墳群
33. 薬師堂古墳
34. 足門村西古墳群
35. 寺屋敷古墳群
36. 鶴巻古墳群
37. 東久保古墳群
38. 観音寺古墳
39. 北寝保窪古墳群
40. 棟高遺跡群Ⅰ
41. 棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡
42. 西国分新田遺跡
43. 北谷遺跡
44. 冷水村東遺跡
45. 小池遺跡
46. 西三社免遺跡
47. 棟高辻久保遺跡
48. 引間六石遺跡
49. 後足間遺跡群
50. 西国分遺跡群
51. 上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡
52. 上野国分僧寺

第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)



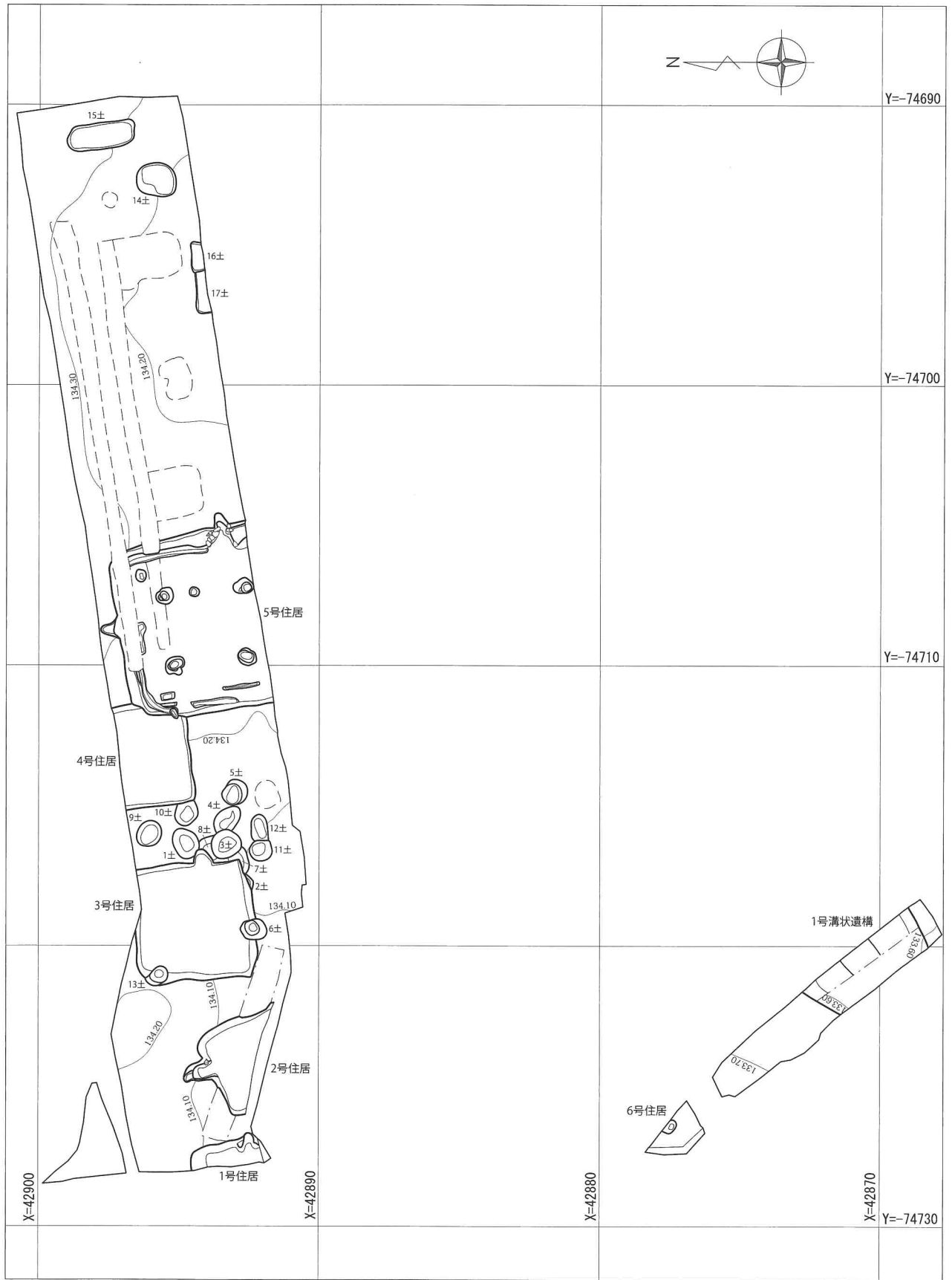
IV 基本堆積土層

I層は碎石主体の現表土で約10cm堆積している。II層はAs-B粒混土層で、As-B粒及び白色粒（As-A粒か）を多く含み10～30cm程堆積し、遺物を少量包含する。II層下が遺構確認面である。III層はAs-C粒混土層でAs-C粒を多く含み、調査区西側のみ堆積が認められる。IV層はAs-C粒混土層下の黒色土で、根攪乱等により部分的にAs-C粒が少量混じるが、ムラ無く均一な堆積をしている。III層同様に調査区西側のみ堆積である。V層は暗褐色土で黄色粒を少量含む。調査区東側はIII・IV層の堆積は無く、V層上面が遺構確認面である。VI～VIII層は粘性がややあり硬くしまり、VIII層の下部はやや砂質である。



	V	V	V
I 表土		碎石主体	
II As-B粒混土層	暗褐色	粘性なし・しまりややあり As-B粒をやや多く含み白色軽石及び 土粒を含む（遺物を少量包含する）	
III As-C粒混土層	黒褐色	粘性弱・しまりややあり 白色軽石（As-C粒）をやや多く含む 本層上面が遺構確認面	
IV 黒褐色土層	黒褐色	粘性弱・しまりややあり 黄色粒を少量含む	
V 暗褐色土層	暗褐色	粘性ややあり・しまりあり 黄色粒を含む	
VI 褐色土層	褐色	粘性ややあり・しまりあり 黄色及び白色粒を含む	
VII 黄褐色土層	黄褐色	粘性ややあり・しまりあり 黄色及び白色粒を含み 黄色土小ブ ロックが部分的に含まれる	
VIII 黄色土層	黄色	粘性あり・しまりあり 黄色及び白色粒を含み やや砂質	

第3図 基本堆積土層 柱状図・写真



第 4 図 遺跡全体図 (1/200) 破線部は攪乱

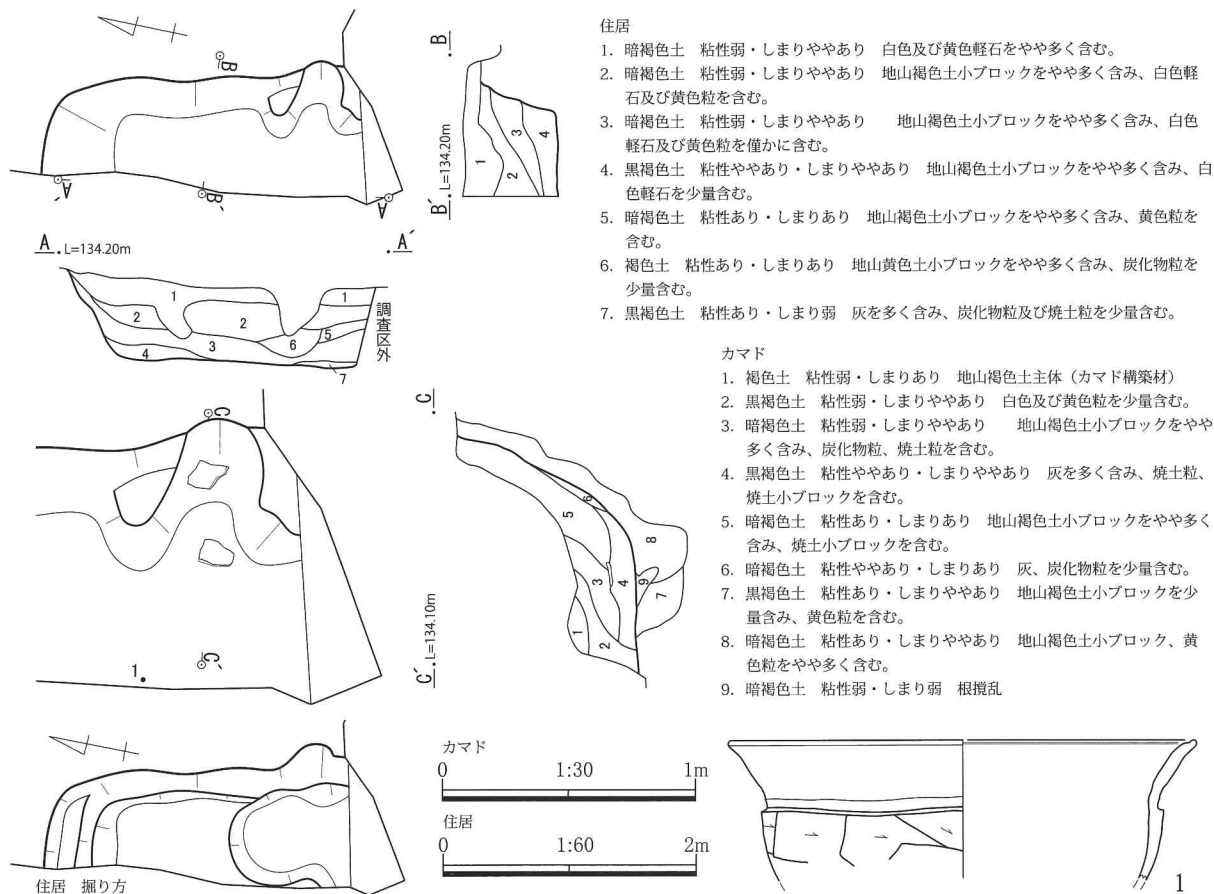
V 調査の成果

発掘調査の結果、竪穴住居跡 6 軒、溝状遺構 1 条、土坑 17 基を検出した。旧地形は北東から南西に向かい緩傾斜し、2 号住居周辺以西からは谷状地形となり、Ⅱ及びⅢ層が西に向かうにつれ次第に厚く堆積していく。それに対し、4 号住居以東ではⅡ層下がⅤ層となり、Ⅲ及びⅣ層の堆積は認められず、微高地となる様相を示している。Ⅴ層上面において、調査区の西側と東側での高低差は約 50cm を計る。遺構は調査区中央から西側に多く分布する傾向にある。検出された竪穴住居跡は、いずれも確認面から床面まで 60cm 以上あり、良好な状態で残存している。

竪穴住居跡

1 号住居

調査区西側にて検出された。大部分が調査区外になる為、規模の詳細は不明であるが、確認面から床面まで深さは 70cm で、東側にカマドが構築されている。床面は貼り床されず、地山褐色土を平坦に整え床とし若干硬化している。柱穴及び壁周溝は検出されなかった。カマドは、両袖に地山褐色粘土を貼り付けて構築され、煙道は東壁を約 5cm 掘り込み造り出されている。全体的に被熱は少なく、壁面の焼土化はあまりみられないが、底面には灰の堆積が認められた。遺物はカマド及び床面から少量検出されたのみである。掘り方は、カマド前面がやや深く掘られている。出土した遺物から帰属時期は 7 世紀前半であると考えられる。



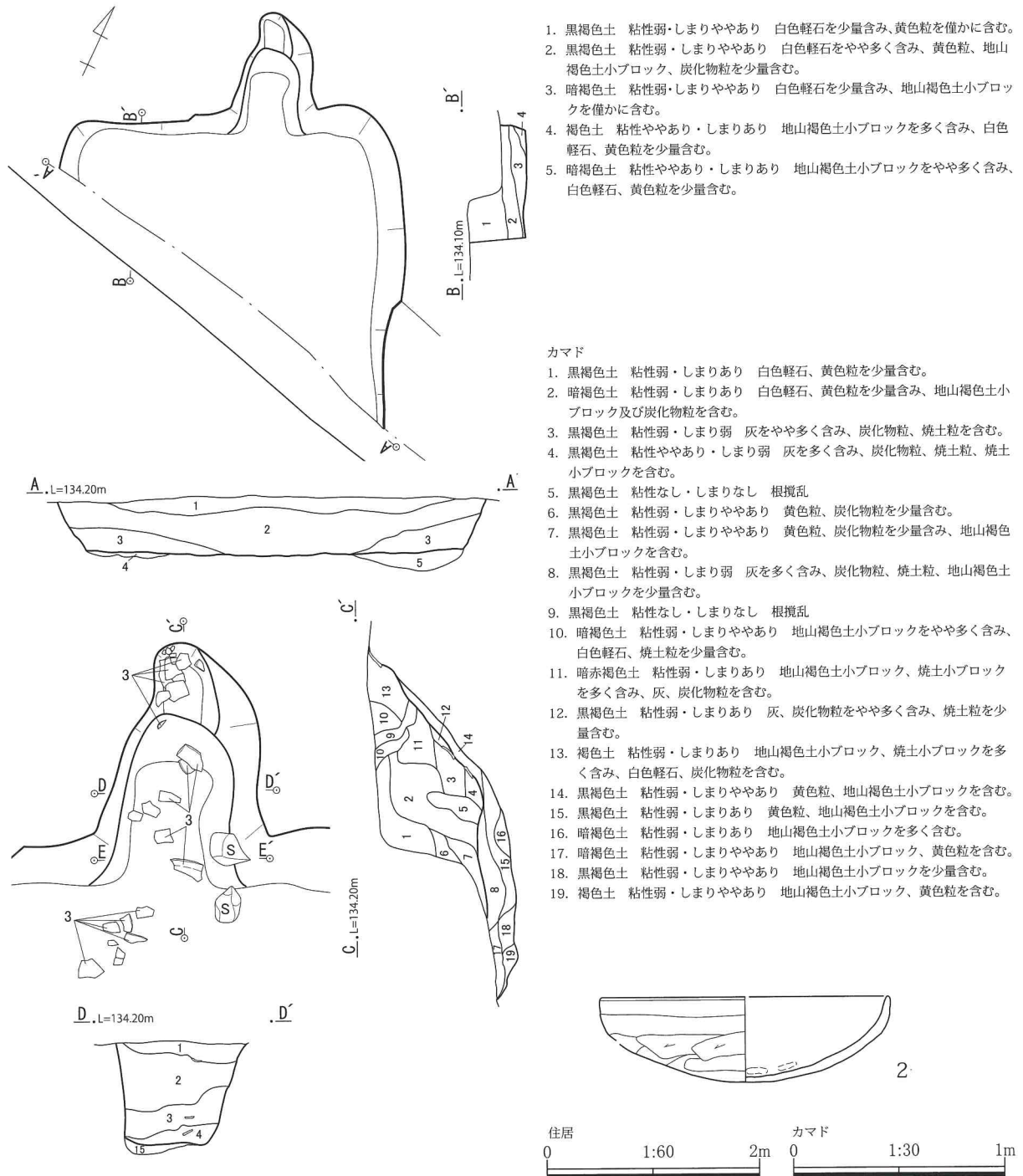
第 5 図 1 号住居 平・断面図・掘り方平面図 (1/60) カマド 平・断面図 (1/30) 出土遺物図 (1/3)

第 1 表 1 号住居遺物観察表 (単位cm)

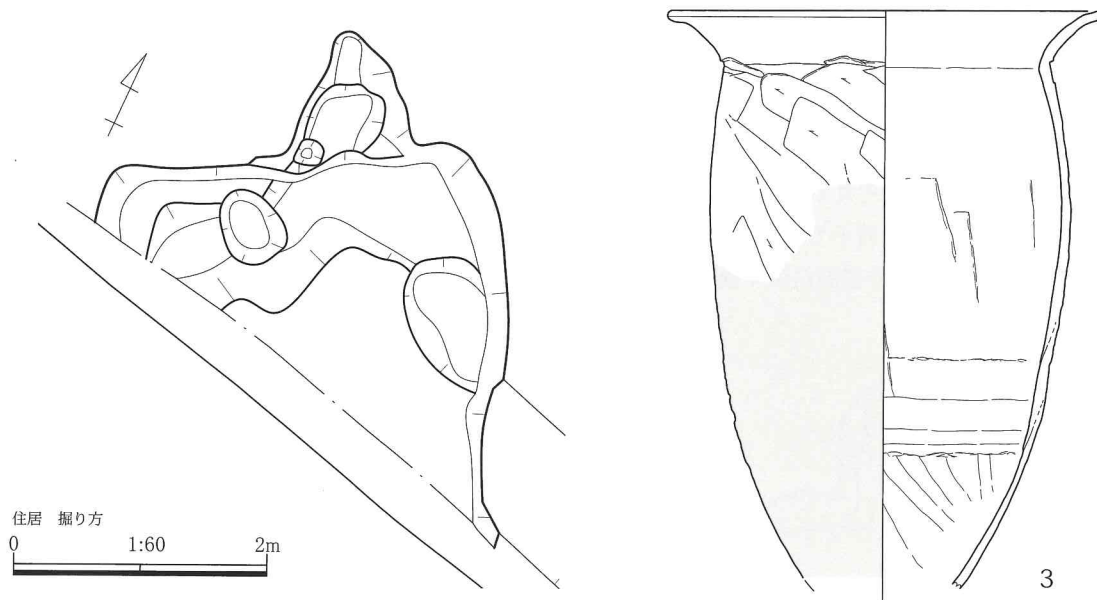
番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
1	土師器 鉢	1 号住居 床面	18.6・ — 〈5.45〉	外面：口縁部ヨコナデ 下部に 1 条の稜あり 体部ヘラ削り 口縁部と体部境は凸状 内面：ヨコナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色

2号住居

調査区西側にて検出された。一部調査区外になるが、北側にカマドが構築され、規模は長軸 3.02 m、短軸 3.22 mを計り、平面は長方形である。床面は貼り床されず、地山褐色土を平坦に整え床とし全体的に硬化している。柱穴及び壁周溝は検出されなかった。カマドは北壁を約 90cm掘り込んだ後、地山褐色土を貼り付けて構築されている。右袖には補強材と考えられる礫が崩落した状態で検出された。全体的に被熱は少なく、壁面の焼土化も僅かであるが、底面には若干ではあるが灰の堆積が認められた。遺物はカマドからNo. 3が、床面からNo. 2が出土した。掘り方はカマド前面が深く掘られている。出土した遺物から帰属時期は 7 世紀後半であると考えられる。



第6図 2号住居 平・断面図 (1/60) カマド 平・断面図 (1/30) 出土遺物図 (1/3)

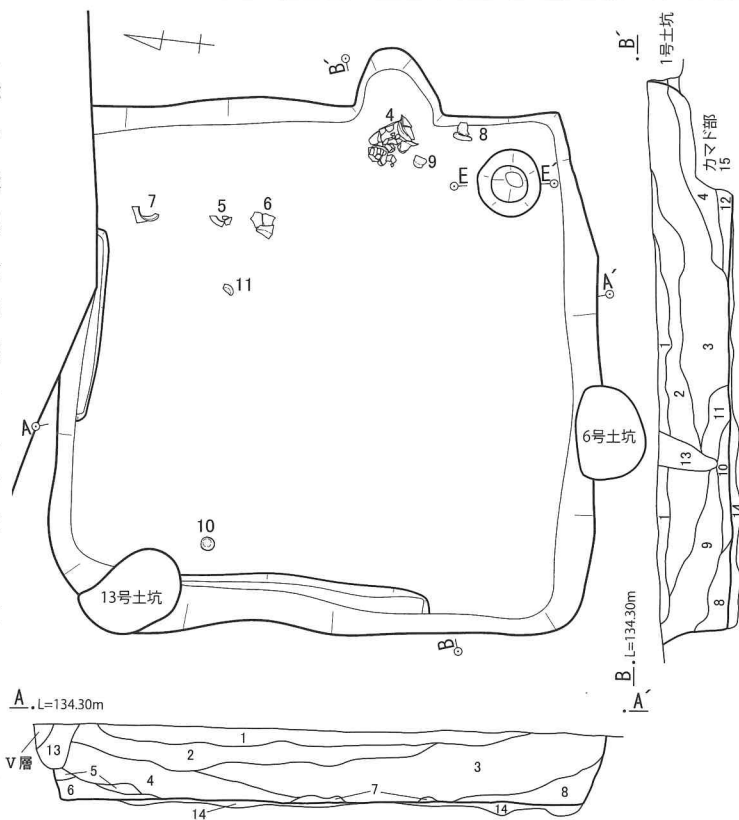


第7図 2号住居 掘り方平面図(1/60) 出土遺物図(1/4) トーン部はカマド材癒着部
第2表 2号住居遺物観察表(単位cm)

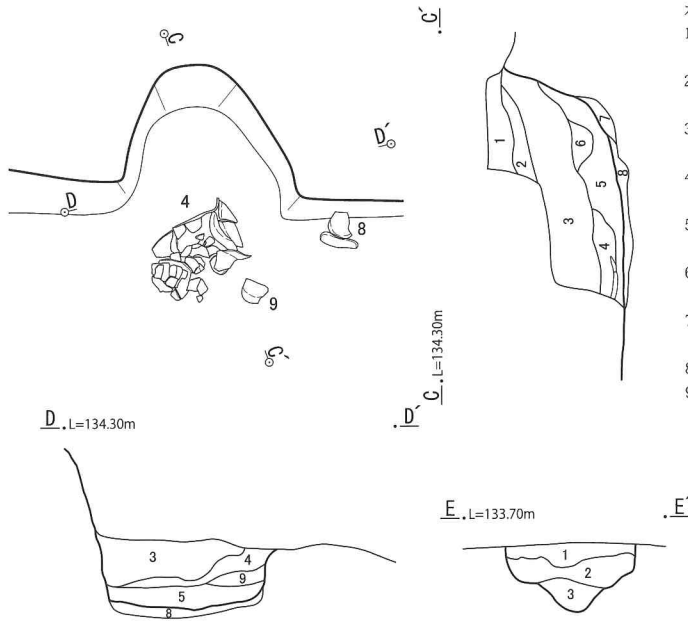
番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
2	土師器 坏	2号住居 床面	13.7・— 4.0	外面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面:口縁から体部ヨコナデ 底部ナデ 指頭圧痕あり	細砂粒・白色粒	良好(硬質) にぶい橙色
3	土師器 甕	2号住居 カマド底面	23.0・— — 〈30.5〉	外面:口縁部ヨコナデ 体部上斜め方向のヘラ削り 胴部~底部カマド材の癒着あり 内面:口縁部ヨコナデ 体部上横方向のヘラナデ 中位横方向のナデ 下位斜め~縦方向のナデの3段階	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色

3号住居

調査区中央にて検出された。1、2、6、7、13号土坑と重複関係にあり本遺構が一番古いと考えられる。規模は東西4.17m、南北4.28mで、東側にカマドが構築されている。床面は、地山褐色土と黒色土の混土で2~7cm程貼り床され、全体的に硬化している。部分的に壁周溝が周り、深さ28cmの貯蔵穴が南東隅に確認された。柱穴は検出されなかった。カマドは、壁を約50cm掘り込んで造り出されている。壁面は焼土化し赤く変色しており、底部には灰の堆積が認められた。構築材と考えられる礫等は検出されなかった。遺物はカマド焚口付近にてNo.4が潰れた状態で検出され、床面にてNo.8、9、11が出土した。掘り方は浅く不整形で、カマド袖部分に礫の抜き取り痕が検出された。出土した遺物から帰属時期は7世紀後半であると考えられる。



第8図 3号住居 平・断面図(1/60)



カマド

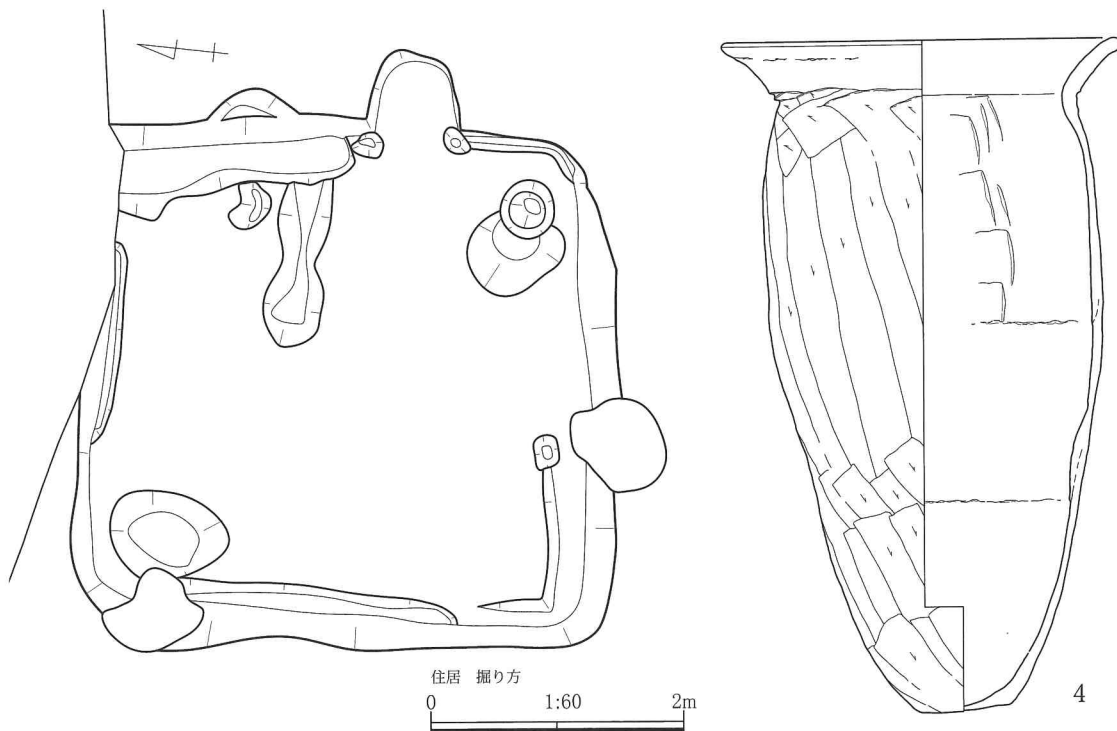
1. 褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、白色軽石を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び白色軽石を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、地山褐色土小ブロック、黄色粒を少量含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 灰、炭化物粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロックを少量含む。
5. 褐色土 粘性ややあり・しまり弱 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
6. 褐色土 粘性ややあり・しまり弱 地山褐色土をやや多く含み、炭化物粒及び焼土粒を少量含む。
7. 暗赤褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロックを多く含み、灰及び炭化物粒をやや多く含む。
8. 黒色土 粘性弱・しまり弱 灰主体で、炭化物粒及び焼土粒を多く含む。
9. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 地山褐色土をやや多く含み、灰及び炭化物粒を少量含む。

貯蔵穴

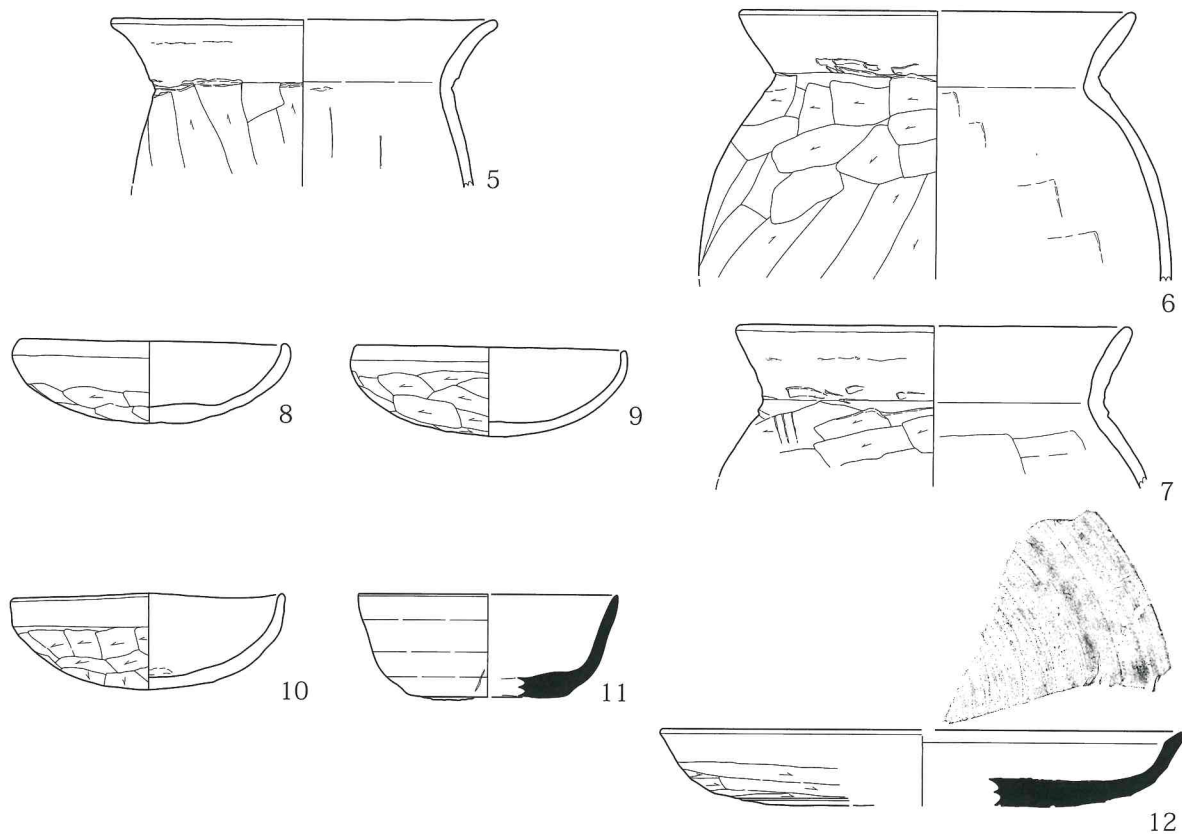
1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、焼土粒及び炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを少量含む。

住居

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、地山褐色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、黄色粒を多く含み、白色軽石、炭化物粒を少量含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、白色軽石、炭化物粒を少量含む。
5. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり 白色軽石及び黄色粒を僅かに含む。
6. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。
7. 黒色土 粘性弱・しまりややあり 炭化物を多く含み、焼土粒を少量含む。
8. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、白色軽石及び黄色粒を少量含む。
9. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、白色軽石を少量含む。
10. 黒色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、炭化物粒を僅かに含む。
11. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、炭化物粒を少量含む。
12. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 炭化物粒をやや多く含み、焼土粒を少量含む。
13. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 根攪乱
14. 褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、炭化物粒及び焼土粒を少量含む。(掘り方)



第9図 3号住居 カマド 平・断面図 (1/30) 掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/4)



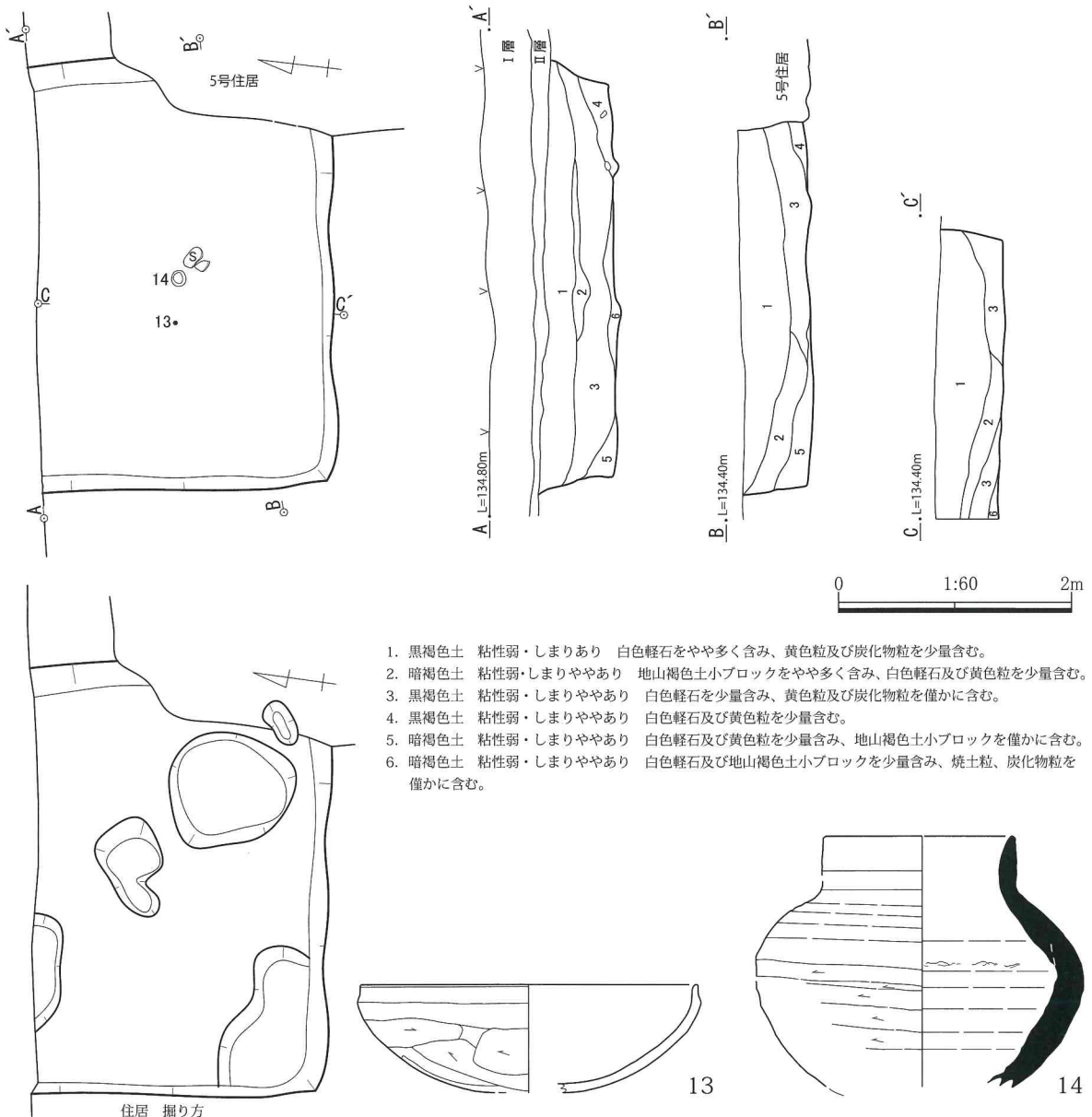
第10図 3号住居 出土遺物図 No.5~7 (1/4) No.8~12 (1/3)

第3表 3号住居遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
4	土師器 甕	3号住居 カマド底面	21.2・ 4.7 35.6	外面：口縁部ヨコナデ 一部輪積痕が残る 体部 上位斜め方向・中位縦方向・下位斜め方向のヘラ 削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部横方向のヘラナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) にぶい橙色
5	土師器 甕	3号住居 覆土	10.5・ — 〈8.9〉	外面：口縁部ヨコナデ 一部輪積痕が残る 体部 縦方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
6	土師器 甕	3号住居 覆土	21.0・ — 〈14.2〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面：口 縁部から体部上ヨコナデ	細砂粒・白色粒	やや不良(軟質) 橙色
7	土師器 甕	3号住居 覆土	11.0・ — 〈8.5〉	外面：口縁部ヨコナデ 一部輪積痕が残る 体部 斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部横方向のヘラナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
8	土師器 杯	3号住居 床面	11.0・ — 3.3	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
9	土師器 杯	3号住居 床面	10.8・ — 3.5	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
10	土師器 杯	3号住居 床面	10.9・ — 3.8	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ 底部ナデ 底部に 指頭圧痕あり 全体的に歪みあり	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
11	須恵器 碗	3号住居 床面	10.1・ 6.2 4.1	外面：ロクロ整形 底部回転ヘラ切無調整 内面：ロクロ整形 体部と底部境は強く押され器 肉薄く窪む	極細砂粒	良好(硬質) 灰色
12	須恵器 盤	3号住居 覆土	20.8・ — 〈3.0〉	外面：口縁部ロクロ整形 体部～底部ヘラ削り 底部3条の沈線あり 底部中央付近はロクロ整形 内面：ロクロ整形 口唇部に平坦面あり 底部付 近にカキ目あり	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色

4号住居

調査区中央にて検出された。5号住居と重複関係にあり、本遺構の方が古い。規模は東西3.73m、南北は調査区外になる為不明であるが、2.57m以上である。カマドは検出されなかったが、北壁下層での土層観察にて焼土及び炭化物が多く含まれる為、北側に構築されている可能性が考えられる。床面は地山褐色土と黒色土の混土で約3cm貼り床され平坦に整えられ、全体的に硬く硬化している。壁周溝及び柱穴は検出されなかった。遺物は床面からNo.13、14が出土した。掘り方は全体的に浅く不整形である。出土した遺物及び重複関係から帰属時期は7世紀後半であると考えられる。



1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、黄色粒及び炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、白色軽石及び黄色粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石を少量含み、黄色粒及び炭化物粒を僅かに含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、地山褐色土小ブロックを僅かに含む。
6. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び地山褐色土小ブロックを少量含み、焼土粒、炭化物粒を僅かに含む。

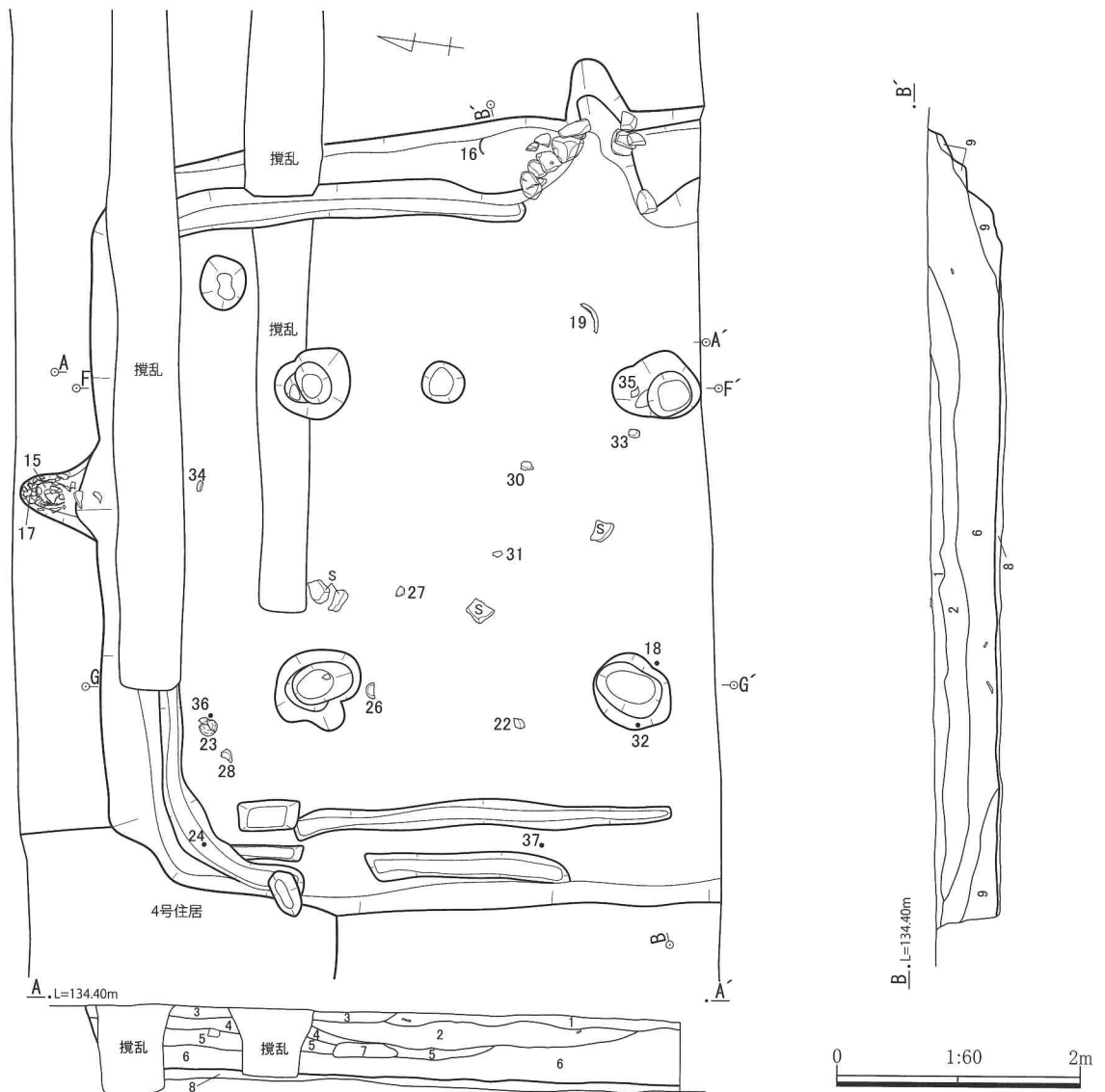
第11図 4号住居 平・断面図・掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)

第4表 4号住居遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
13	土師器 杯	4号住居 床面	14.8・— 〈4.7〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
14	須恵器 短頸壺	4号住居 床面	8.2・— 〈10.8〉	外面：口縁部から体部最大径部までロクロ整形 以下は回転ヘラ削り 器面粗い 内面：ロクロ整形 輪積痕あり	細砂粒・白色粒 3mmの礫	やや不良(軟質) にぶい橙色

5号住居

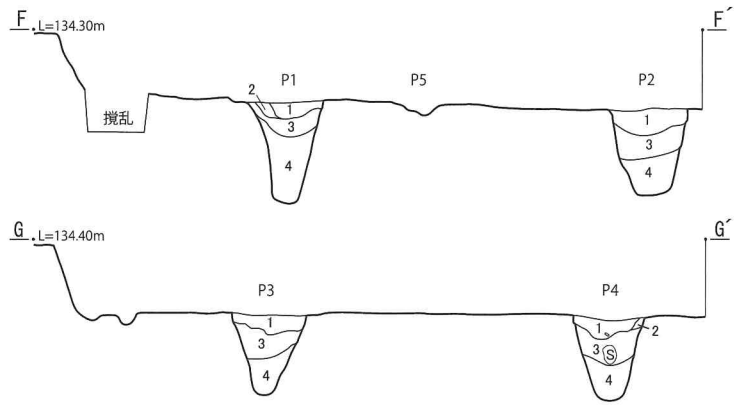
調査区中央にて検出された。4号住居と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は東西6.50m、南北5.05m以上で東側と北側にカマドが構築されている。床面は、地山褐色土と黒色土の混土で3~7cm貼り床され、全体的に硬化している。主柱穴は4基検出され深さは全て60cm以上と深い。貯蔵穴は検出されなかったが、調査区外に位置する可能性がある。西側には2条の壁周溝が検出されており、拡張もしくは造り替えされた可能性が指摘される。北カマドは、壁を約60cm掘り込んで造り出され、煙道部にはNo.15とNo.17の甕が逆位で重なった状態で検出された(PL5参照)。壁面の焼土化はほとんど無く、煙道部と底部に若干焼土が散っている程度である。袖部分は耕作により破壊され詳細は不明である。構築材と考えられる礫及び粘土等は検出されなかった。東カマドは石組で、壁を約50cm掘り込み造り出されている。燃烧部は河原石を積み重ね構築され、3段の石組が確認された。壁面は被熱の為、焼土化しており、底面には灰の堆積が認められた。両カマドの前後関係は不明である。遺物は、住居覆土中から非常に多く出土している。床面のものはNo.19、33、35で他は全て覆土中からの出土である。覆土は人為的な埋め戻しと推測され、中層には灰及び焼土、炭化物の堆積が認められる。掘り方は浅く不整形で、7及び8号ピットが床下から検出された。出土した遺物から帰属時期は8世紀前半であると推測される。



第12図 5号住居 平・断面図(1/60)

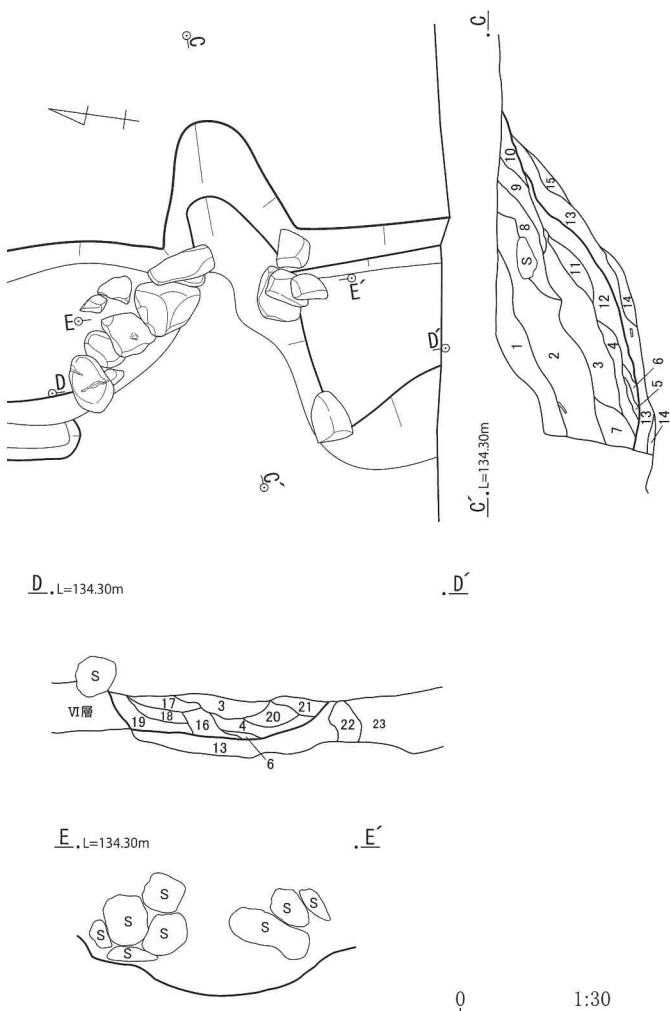
住居

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び焼土粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。また、遺物を少量包含する。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、焼土粒、炭化物粒、地山褐色土小ブロックを少量含む。また、遺物を少量包含する。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石を少量含み、焼土粒を僅かに含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり 白色軽石をやや多く含み、焼土小ブロック及び炭化物粒を少量含む。
5. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり 白色軽石を少量含み、地山褐色土小ブロック及び焼土粒を僅かに含む。
6. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒をやや多く含み、白色軽石及び炭化物粒を少量含む。また、遺物を多く包含し、ほとんどが細破片である。
7. 褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロック主体で、白色軽石及び焼土粒を僅かに含む。
8. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、白色軽石及び黄色粒を少量含む。(掘り方)
9. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、炭化物粒を僅かに含む。



各ピット共通

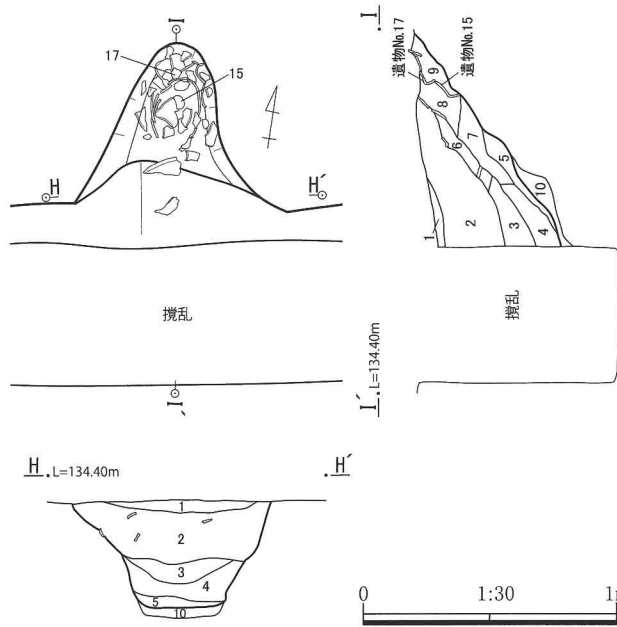
1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒及び炭化物粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、黄色粒を少量含む。住居覆土6層に似る。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを少量含み、焼土粒及び炭化物粒を僅かに含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を多く含み、炭化物粒、焼土粒を含む。
4. 黒褐色土 粘性ややあり・しまり弱 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含み、炭化物粒、焼土粒を僅かに含む。
5. 赤褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック及び焼土粒を多く含み、灰、炭化物粒を含む。
6. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土粒、炭化物粒、黄色粒を少量含む。



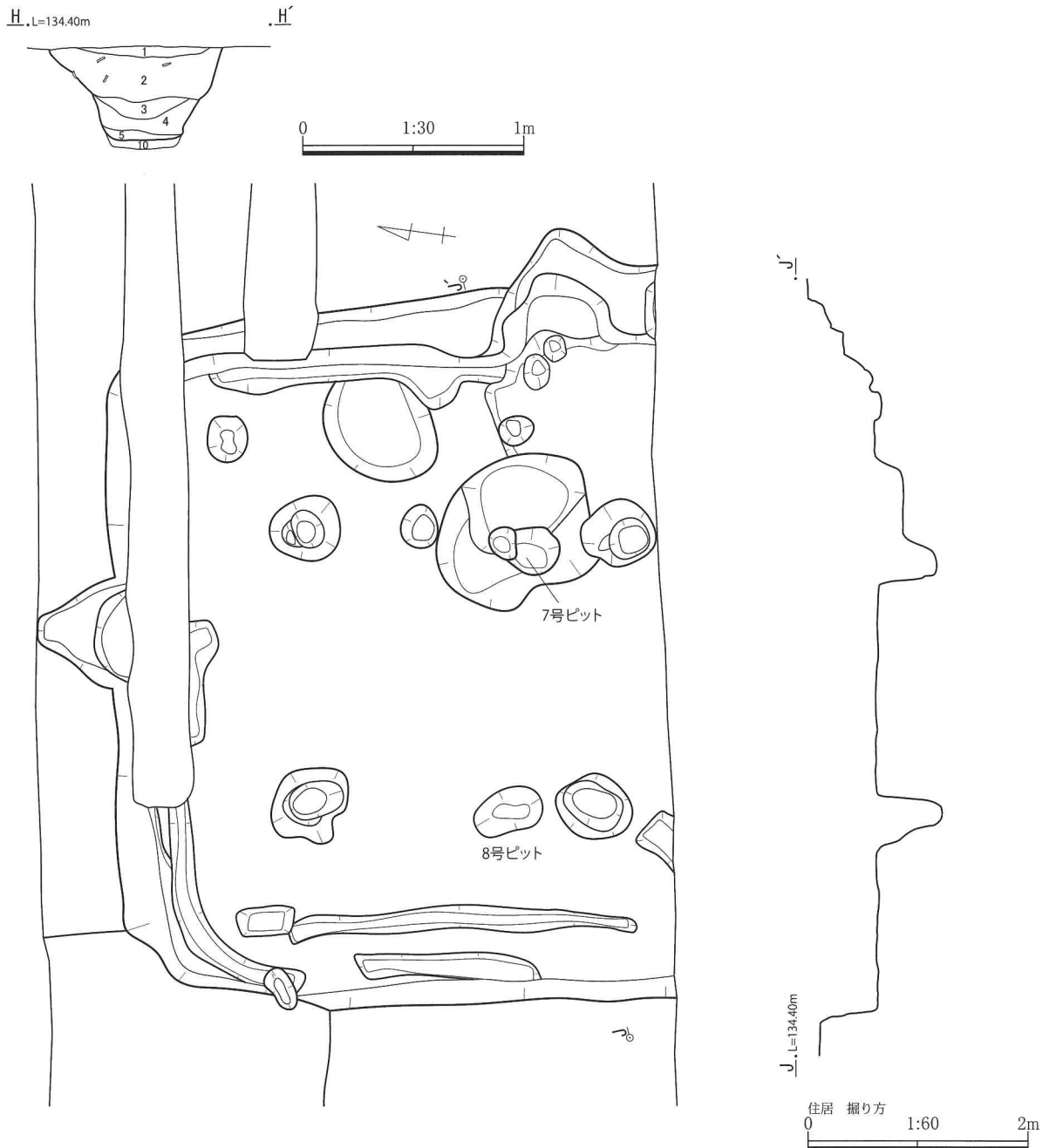
カマド

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 焼土粒、白色軽石をやや多く含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒及び地山褐色土小ブロックをやや多く含み、白色軽石を少量含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒及び焼土小ブロックを多く含み、灰を少量含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒及び灰をやや多く含む。
5. 黒灰色土 粘性弱・しまり弱 灰が主体で、炭化物粒及び焼土粒を僅かに含む。
6. 赤褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロックが主体で、灰を少量含む。
7. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 灰を多く含み、炭化物粒、焼土粒及び地山褐色土小ブロックを少量含む。
8. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒及び炭化物粒を少量含み、黄色粒を僅かに含む。
9. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含み、灰及び炭化物粒を少量含む。
10. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒及び炭化物粒を少量含み、灰を僅かに含む。
11. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含み、灰及び炭化物粒を少量含む。
12. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、焼土粒を多く含み、灰及び炭化物粒をやや多く含む。
13. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 焼土小ブロック、焼土粒及び灰を少量含み、地山褐色土小ブロックを僅かに含む。(掘り方)
14. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、焼土粒、灰を少量含む。(掘り方)
15. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土及び黄色粒を少量含む。(掘り方)
16. 赤褐色土 粘性弱・しまりあり 焼土小ブロック主体で、灰を少量含む。
17. 黒灰色土 粘性弱・しまり弱 灰を多く含み、焼土粒を少量含む。
18. 暗赤褐色土 粘性弱・しまり弱 灰及び焼土小ブロックを多く含む。
19. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石を少量含み、地山褐色土小ブロックを僅かに含む。(掘り方)
20. にぶい褐色土 粘性弱・しまり弱 灰をやや多く含み、焼土粒及び炭化物粒を少量含む。
21. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 炭化物粒及び焼土粒をやや多く含む。
22. 褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土主体で焼土粒を僅かに含む。(カマドの構築材か)
23. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 白色軽石を少量含み、焼土粒及び炭化物粒を僅かに含む。

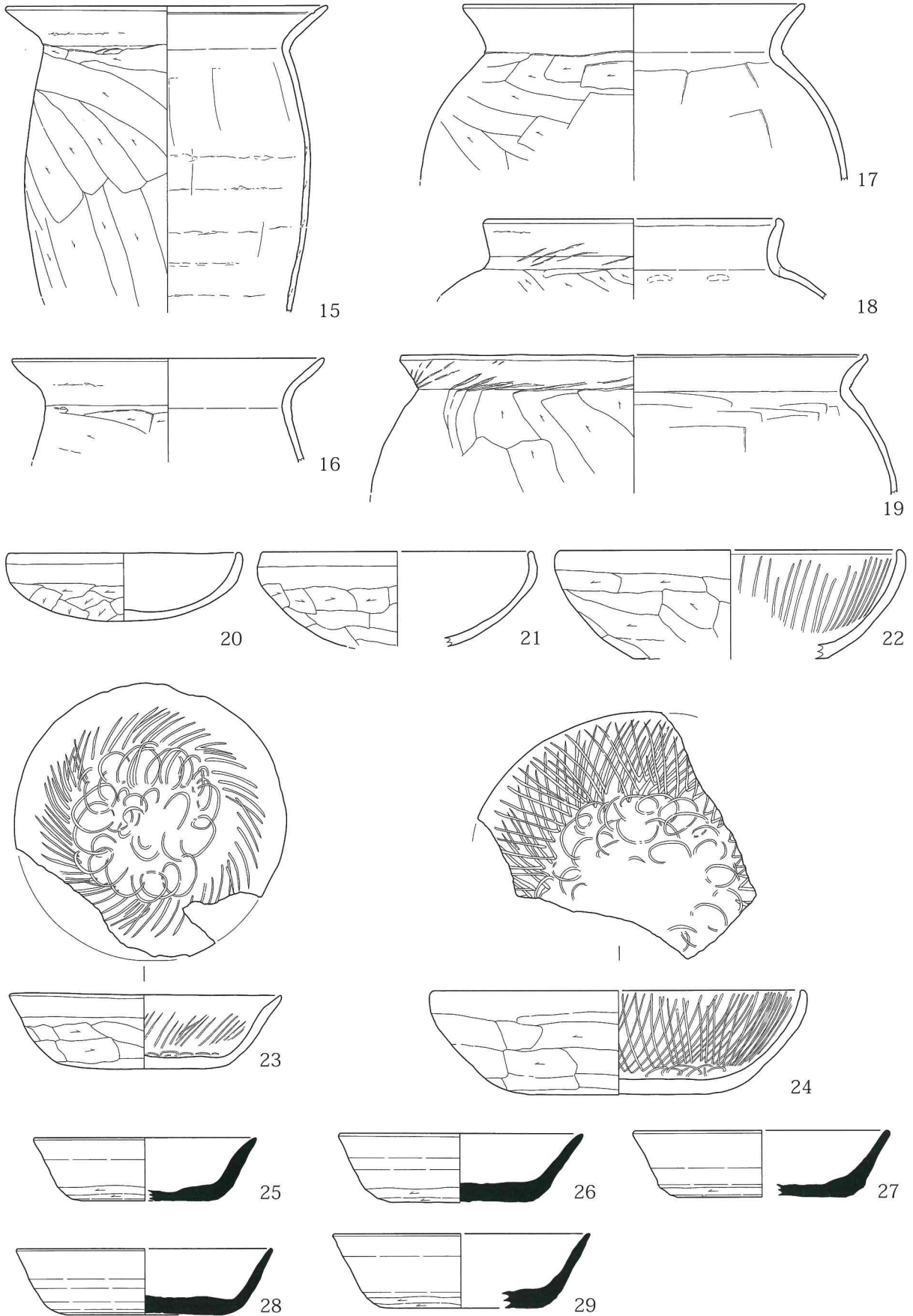
第13図 5号住居 柱穴断面図(1/60) 東カマド平・断面図・エレベーション図(1/30)



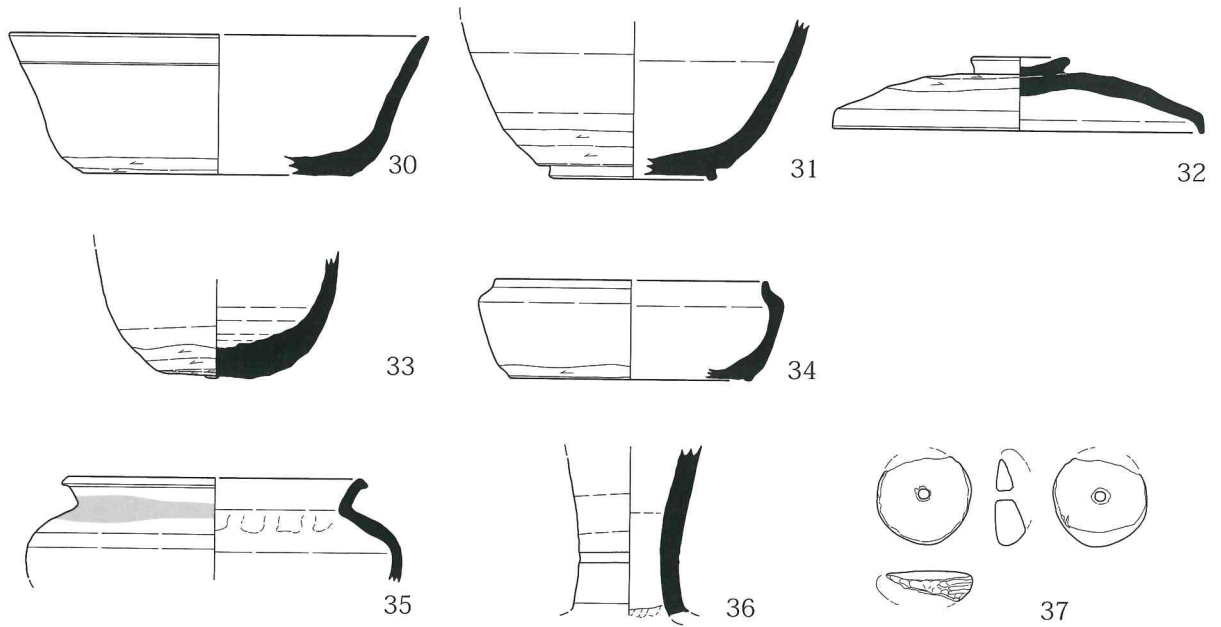
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり 白色軽石をやや多く含み、焼土粒を少量含む。住居覆土3層と同層
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、焼土粒をやや多く含み、焼土小ブロックを少量含む。また、カマドで使用していた甕の破片を少量含む。
3. 暗赤褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロック及び灰を多く含み、カマドで使用していた甕片を多く含む。
4. 黒灰色土 粘性弱・しまり弱 灰を多く含み、焼土小ブロックを少量含む。
5. 黒灰色土 粘性弱・しまり弱 灰を多く含み、炭化物粒、焼土粒を含む。
6. 黒灰色土 粘性弱・しまり弱 灰、焼土粒を多く含み、焼土小ブロックを少量含む。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック及び焼土粒をやや多く含み、炭化物粒、灰を少量含む。
8. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 白色軽石及び焼土粒を少量含み、焼土小ブロックを僅かに含む。
9. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び焼土粒を少量含む。
10. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、焼土粒及び炭化物粒を僅かに含む。(掘り方)



第14図 5号住居 北カマド 平・断面図 (1/30) 掘り方平面図・エレベーション図 (1/60)



第15图 5号住居 出土遺物図 No. 15 ~ 19 (1/4) No. 20 ~ 29 (1/3)



第 16 図 5号住居 出土遺物図 No.30～34・37 (1/3) No.35・36 (1/4) トーン部は施釉

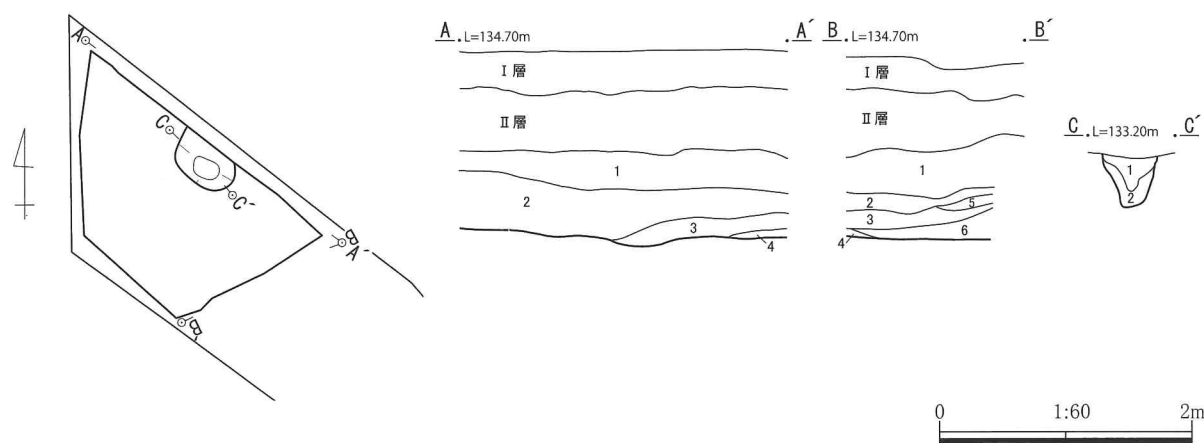
第 5 表 5号住居遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成 (質感) 色
15	土師器 甕	5号住居 北カマド煙道	22.6・— 〈8.9〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部横～斜め方向のヘラ 削り 内面：口縁部ヨコナデ 上位に1条の沈線 あり 体部横方向のヘラナデ	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 橙色
16	土師器 甕	5号住居 覆土	22.0・— 〈7.3〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部横～斜め方向のヘラ 削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 橙色
17	土師器 甕	5号住居 北カマド煙道	24.0・— 〈12.5〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部横～斜め方向のヘラ削 り 内面：口縁部ヨコナデ 体部横方向のヘラナデ	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 橙色
18	土師器 甕	5号住居 覆土	21.2・— 〈5.7〉	外面：口縁部ヨコナデ ヘラの圧痕あり 体部斜め 方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 口唇部 は強くナデられ凹状 体部ナデ 指頭圧痕あり	細砂粒・白色粒 雲母	良好 (硬質) にぶい橙色
19	土師器 甕	5号住居 床面	33.0・— 〈9.8〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 口唇部は強くナデられ凹状	細砂粒・白色粒 雲母	良好 (硬質) 暗褐色
20	土師器 坏	5号住居 覆土	12.5・— 〈3.6〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 橙色
21	土師器 坏	5号住居 覆土	14.8・— 〈5.0〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 橙色
22	土師器 坏	5号住居 覆土	18.6・10.4 〈5.8〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部及び底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ後放射状暗文 底部 螺旋状暗文か	極細砂粒・白色 粒	良好 (やや軟質) 橙色
23	土師器 坏	5号住居 覆土	14.4・9.2 4.0	外面：口縁部ヨコナデ 体部及び底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ後放射状暗文 底部 螺旋状暗文	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 暗褐色
24	土師器 坏	5号住居 覆土	20.0・— 5.5	外面：口縁部ヨコナデ 体部及び底部ヘラ削り 内面：口縁部～体部ヨコナデ後放射状暗文 (V字 状) 底部螺旋状暗文 口唇部強くナデられ凹状	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 橙色
25	須恵器 坏	5号住居 床面	11.8・7.8 3.3	外面：ロクロ整形 (左回転) 底部と体部境はヘラ 削り 底部左回転ヘラ切り無調整 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 灰色
26	須恵器 坏	5号住居 覆土	12.9・7.4 3.7	外面：ロクロ整形 (左回転) 底部と体部境はヘラ 削り 底部左回転ヘラ切り無調整 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 灰色
27	須恵器 坏	5号住居 覆土	13.6・8.8 3.5	外面：ロクロ整形 (左回転) 底部と体部境はヘラ 削り 底部左回転ヘラ切り無調整 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好 (硬質) 灰色

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
28	須恵器 坏	5号住居 覆土	13.6・ 7.6 3.5	外面：ロクロ整形(左回転) 底部左回転ヘラ切り無調整 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色
29	須恵器 坏	5号住居 覆土上層	13.6・ 8.7 3.9	外面：ロクロ整形(左回転) 底部と体部境はヘラ削り 底部左回転ヘラ切り無調整 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色
30	須恵器 坏	5号住居 覆土	13.2・ 13.3 3.4	外面：ロクロ整形(左回転) 1条の凸状線あり 底部と体部境はヘラ削り 底部左回転ヘラ切り無調整 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒 石英片	良好(硬質) 灰色
31	須恵器 碗	5号住居 覆土	—・ 6.6 〈6.3〉	外面：ロクロ整形 体部下ヘラ削り 高台部削り出し 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰白色
32	須恵器 蓋	5号住居 覆土	14.4・ 摘み3.9 2.9	外面：天井部右回転ヘラ削り 体部～口縁部ロクロ整形 摘み：釘状貼付け 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色
33	須恵器 小形壺	5号住居 床面	—・ 3.4 〈5.3〉	外面：ロクロ整形 体部下～底部左回転ヘラ切り無調整(切り離しまで一連) 内面：ロクロ整形 指圧痕が顕著に残る	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色
34	須恵器 短頸壺	5号住居 覆土	10.4・ 9.4 3.9	外面：ロクロ整形 体部と底部境ヘラ削り 底部左回転ヘラ切り無調整 低い高台削り出し 内面：ロクロ整形	極細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰白色
35	須恵器 短頸壺	5号住居 床面	16.2・ — 〈5.4〉	外面：ロクロ整形 頸部に刷毛にて1条の施釉 内面：ロクロ整形 頸部下に指頭圧痕あり	極細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色
36	須恵器 長頸壺	5号住居 覆土	—・ — 〈9.0〉	外面：ロクロ整形 下部に1条の沈線あり 内面：ロクロ整形 体部接合部に指頭圧痕あり	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色
37	滑石製 紡錘車	5号住居 覆土上層	径4.4 重31g 孔径0.5	側面に横方向の細かい削り痕あり		灰白色

6号住居

調査区南西にて検出された。調査区が狭い為、規模及び付帯施設の詳細は不明であるが、柱穴が1基検出された。現地表から床までは1.50mと非常に深く、覆土は均一な堆積をしている。床面は貼り床されず、地山褐色土を平坦に整え床面とし、全体的に硬化している。遺物は覆土中から少量出土したのみで、床面からは確認されなかった。出土した遺物から帰属時期は7～8世紀であると推測される。



1. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒をやや多く含む、炭化物粒を僅かに含む。
2. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含む、炭化物粒を僅かに含む。
3. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含む、炭化物粒、焼土粒を僅かに含む。
4. 黒色土 粘性ややあり・しまりややあり 黄色粒及び炭化物粒を僅かに含む。
5. 黒色土 粘性あり・しまりややあり 黄色粒及び炭化物粒を僅かに含む。
6. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む、炭化物粒、焼土粒を含む。

ピット

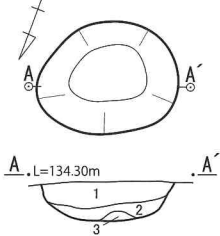
1. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む、炭化物粒を僅かに含む。
2. 暗褐色土 粘性ややあり・しまり弱 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を多く含む。

第17図 6号住居 平・断面図・ピット断面図(1/60)

土坑

計 17 基検出された土坑のうち、1～12号土坑は3、4号住居周辺で密集して検出されており、掘立柱建物跡を視野に入れたが、組み合うものが少ない為、単体の土坑として扱った。また、各土坑とも用途及び性格は不明である。帰属時期に関しては、1～13号土坑には覆土にAs-B粒が含まれない為、平安時代以前と推測され、14～17号土坑には覆土にAs-B粒が認められる為、平安時代以降であると考えられる。

1号土坑



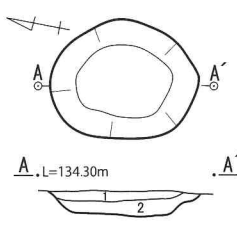
1号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、焼土粒を少量含む。
2. 黒色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び焼土粒を少量含む。
3. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含む。

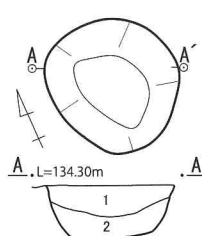
2号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び焼土粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒及び炭化物粒を少量含む。

2号土坑



3号土坑



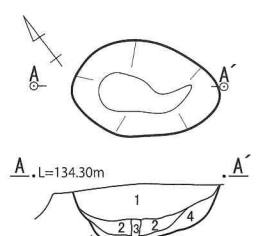
3号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、黄色粒を少量含む。
2. 黒色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石を少量含み、黄色粒及び炭化物粒を含む。

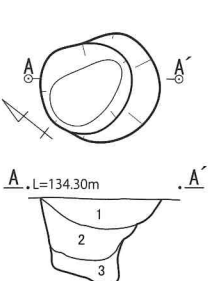
4号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石を多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び地山褐色土小ブロックを少量含む。
3. 褐色土 粘性弱・しまり弱 根攪乱
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。

4号土坑



5号土坑



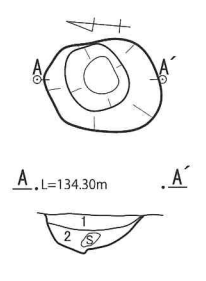
5号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石を多く含み、焼土粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、白色軽石を少量含む。
3. 黒色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、黄色粒を少量含む。

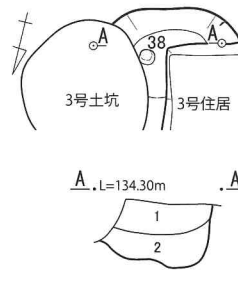
6号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 白色軽石を少量含み、焼土粒を僅かに含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 白色軽石及び地山褐色土小ブロックを少量含む。

6号土坑



7号土坑



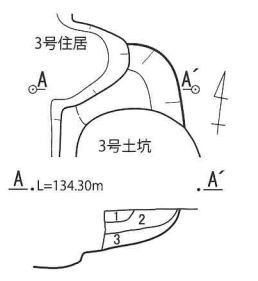
7号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、焼土粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを少量含む。

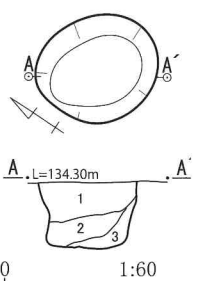
8号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土粒及び白色粒を少量含み、やや砂質。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを少量含む。

8号土坑



9号土坑



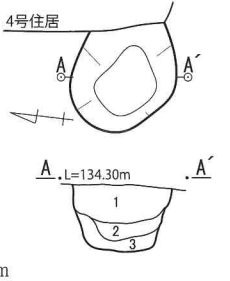
9号土坑

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、黄色粒をやや多く含み、焼土粒を含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、黒色土小ブロックを多く含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含む。

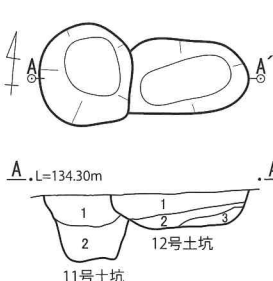
10号土坑

1. 黒色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、黄色粒、焼土粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石を少量含み、地山褐色土小ブロックを含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、黄色粒を含む。

10号土坑



11号土坑・12号土坑



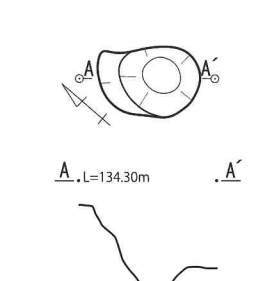
11号土坑

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石、地山褐色土小ブロックをやや多く含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含む。

12号土坑

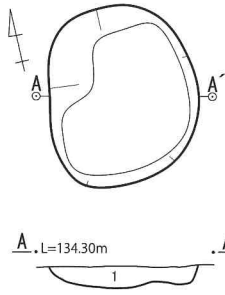
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石をやや多く含み、焼土粒、黄色粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石を少量含み、黄色粒を僅かに含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、黄色粒を少量含む。

13号土坑

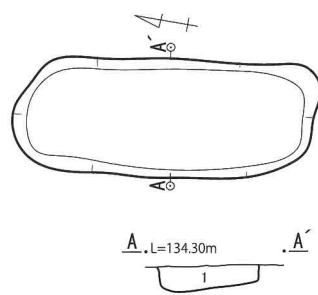


第 18 図 土坑 平・断面図 (1/60)

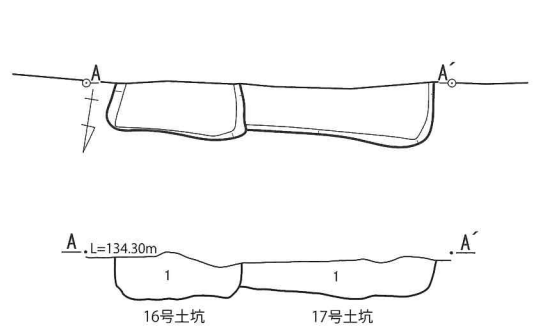
14号土坑



15号土坑



16号土坑・17号土坑



14号土坑

1. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 As-B粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロック及び黄色粒及び炭化物粒を少量含む。

15号土坑

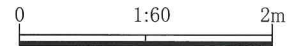
1. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 As-B粒及び地山褐色土小ブロックをやや多く含み、黄色粒、炭化物粒を少量含む。

16号土坑

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。また、焼土粒を僅かに含む。

17号土坑

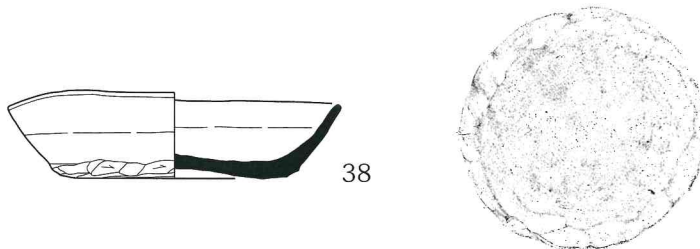
1. 褐色土 粘性弱・しまり弱 As-B粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロック及び黄色粒、炭化物粒を少量含む。



第19図 土坑 平・断面図 (1/60)

第6表 土坑計測表 (単位cm)

土坑No.	平面形態	断面形態	重複・新	重複・旧	長軸	短軸	深さ	時期	備考
1	楕円形	U字状		3号住居	112	90	33		覆土にAs-B粒を含まない
2	楕円形	皿状	7号土坑	3号住居	118	95	21		覆土にAs-B粒を含まない
3	不整形	逆台形		3住4.7.8号土坑	108	107	43		覆土にAs-B粒を含まない
4	楕円形	U字状	3号土坑		117	76	47		覆土にAs-B粒を含まない
5	不整形	U字状			95	83	69		覆土にAs-B粒を含まない
6	楕円形	皿状		3号住居	92	68	31		覆土にAs-Bを粒含まない
7	楕円形か	U字状	3号土坑	3住,2号土坑	99以上	—	49	8世紀代	No.38底面より出土
8	不整形	皿状	3号土坑	3号住居	80以上	—	30	7世紀後半以前	覆土にAs-B粒を含まない
9	不整形	逆台形			99	83	54		覆土にAs-B粒を含まない
10	不整形	逆台形		4号住居	102	83	51	7世紀後半以前	覆土にAs-B粒を含まない
11	不整形	逆台形	12号土坑		81	80	53		覆土にAs-B粒を含まない
12	楕円形	皿状		11号土坑	109	60	26		覆土にAs-B粒を含まない
13	楕円形	U字状		3号住居	80	53	66	7世紀後半以前	覆土にAs-B粒を含まない
14	楕円形	皿状			143	117	19		覆土にAs-B粒を含む
15	隅丸長方形	箱状			242	94	21		覆土にAs-B粒を含む
16	方形か	箱状		17号土坑	111	—	32		覆土にAs-B粒を含む
17	長方形か	箱状	16号土坑		155以上	—	30		覆土にAs-B粒を含む



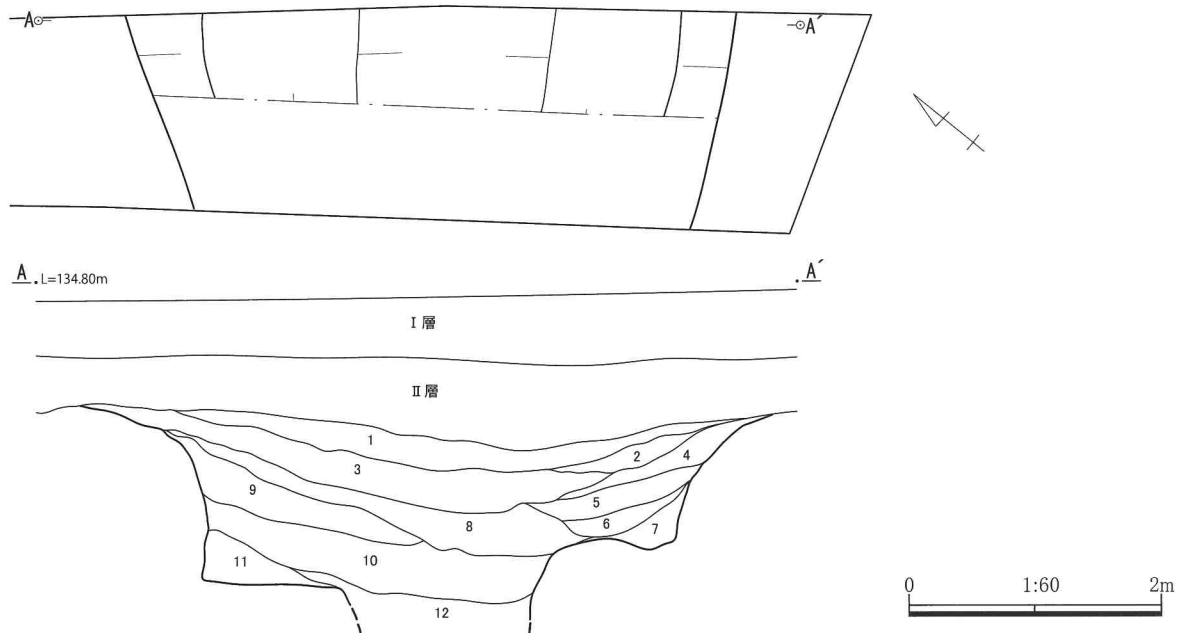
第20図 7号土坑 出土遺物図 (1/3) 拓本は底部

第7表 7号土坑遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
38	須恵器 坏	7号土坑 底面	13.2・13.3 3.4	外面：ロクロ整形(右回転) 底部右回転ヘラ切り 後底部と体部境は手持ちヘラ削り 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色

溝状遺構

調査区南西部道路拡張部にて検出された。規模は、幅 5.4 m、深さ 1.70 m 以上で、確認された長さは 1.7 m である。覆土中に As-B 粒を含み、地山黄褐色土の小ブロックを含む層が皿状に堆積している (PL7)。確認面から 1.8 m 下まで掘り下げたが、調査区が狭く、土砂が崩落する恐れが懸念された為、それ以上の掘り下げは出来なかった。遺物は確認されず、底面を検出できなかった為、形状及び用途等の詳細は不明である。覆土に As-B 粒を含むことから、帰属時期は平安時代以降であると考えられる。



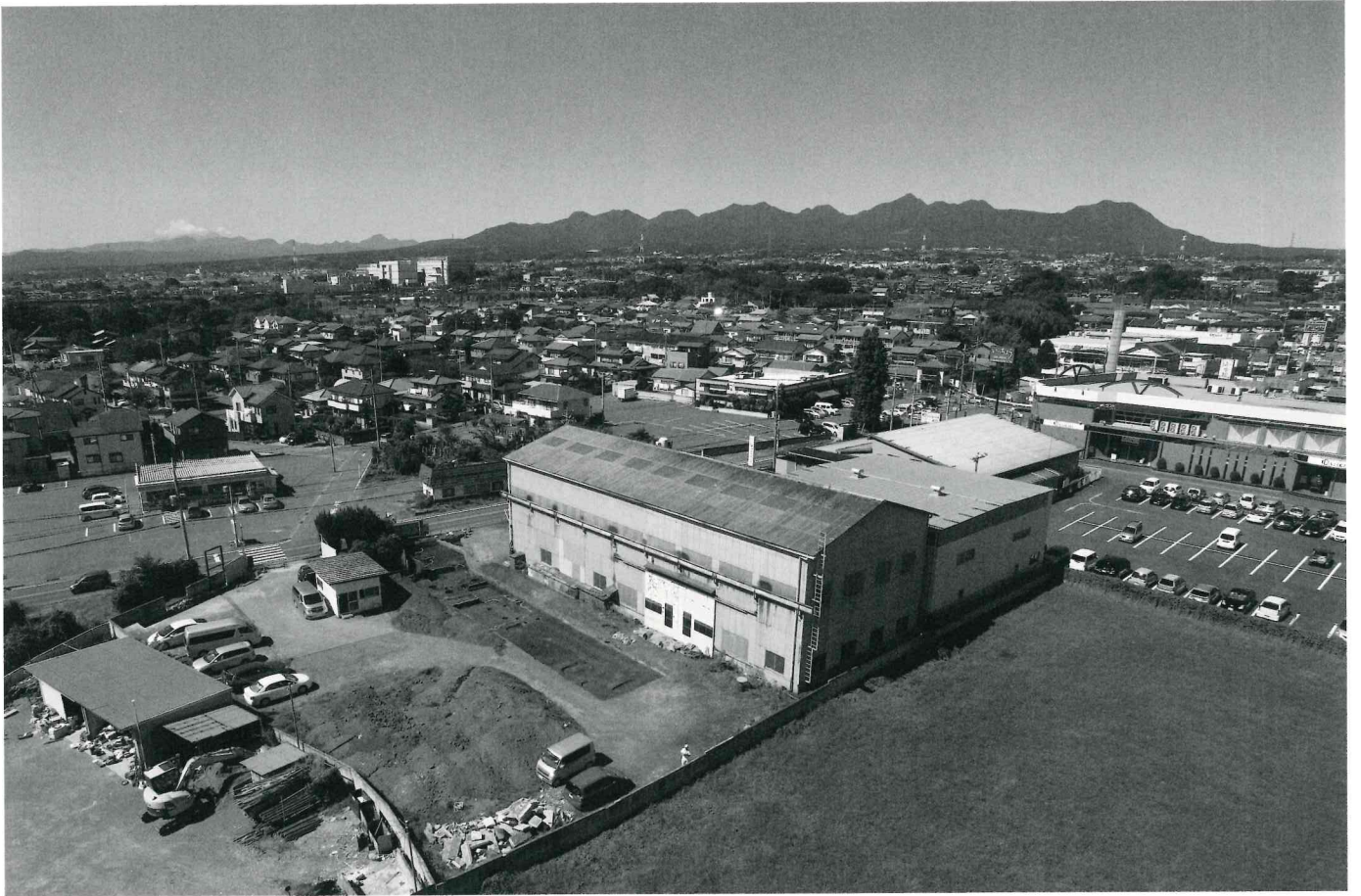
1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒と考えられる灰色粒をやや多く含み、白色軽石及び黄色粒を少量含む。また、炭化物粒を僅かに含む。
2. 褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒と考えられる灰色粒をやや多く含み、地山黄褐色土小ブロックを多く含む。また、白色軽石及び黄色粒を少量含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒と考えられる灰色粒をやや多く含み、白色軽石、黄色粒及び地山黄褐色土小ブロックを少量含む。
4. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり As-B 粒と考えられる灰色粒をやや多く含み、白色軽石及び黄色粒を少量含む。また、炭化物粒を僅かに含む。
5. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山黄褐色土小ブロックをやや多く含み、白色軽石及び黄色粒を少量含む。
6. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山黄褐色土小ブロック、白色軽石及び黄色粒を少量含む。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含む。
8. 黄褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山黄褐色土小ブロックを非常に多く含み、白色軽石を少量含む。
9. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山黄褐色土小ブロックをやや多く含み、白色軽石及び黄色粒を少量含む。
10. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山黄褐色土小ブロック、白色軽石及び黄色粒を少量含む。
11. 黒色土 粘性ややあり・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含む。
12. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山黄褐色土小ブロックをやや多く含み、黄色粒を少量含む。

第 21 図 1 号溝状遺構 平・断面図 (1/60)

VI 総括

今回の調査で検出された 6 軒の竪穴住居跡のうち 8 世紀前半と考えられる 5 号住居に関しては、その埋没状況が顕著に他とは異なっており、覆土の堆積状況及び遺物の出土状態等の観察から自然埋没ではなく、人為的に埋められていると考えられる。この住居は当時の平均的な住居よりやや大きく、東西方向で 6.5 m を測り、北と東にカマドをもつ形態をしている。覆土の中層部分では灰及び焼土ブロックが面的に分布しており、ある程度埋まった段階で有機物を焼却したか、もしくは焼却灰等を廃棄した可能性が推測される。また、本文中でも触れたが遺物が非常に多く出土し、その大半は土師器坏及び甕の小破片である。覆土上層から下層まで満遍なく検出されており、周辺土砂と共に廃棄されたものと推測される。竪穴住居を埋め戻し、平坦にした後の土地利用については今回の調査ではその痕跡は確認されなかったが、何らかの事由で埋め戻された可能性が示唆される良好な資料であると考えられる。

写真図版



調査区全景 上が北西（榛名山を望む）



調査区垂直全景 上が北



表土除去状況



1号住居Aセクション 東から



1号住居カマドCセクション 北から



1号住カマド遺物出土状況 北から



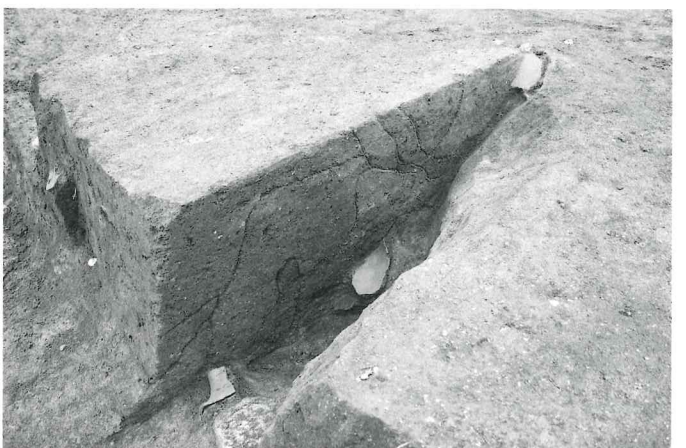
1号住居全景 北から



1号住居掘り方全景 西から



2号住居Aセクション 北から



2号住居カマドCセクション 東から



2号住居カマド遺物No. 3 出土状況 南から



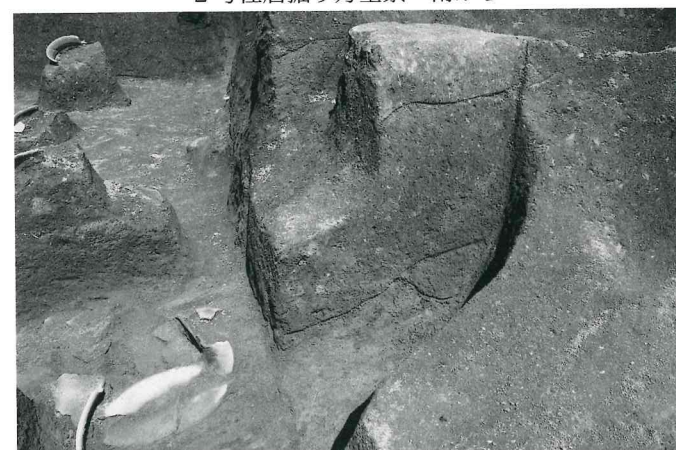
2号住居遺物出土状況 南から



2号住居掘り方全景 南から



3号住居Aセクション 西から



3号住居カマドCセクション 南から



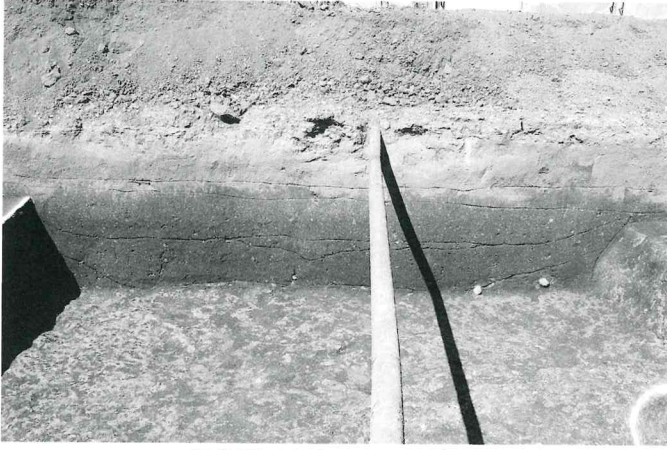
3号住居カマド遺物No. 4・9 出土状況全景 西から



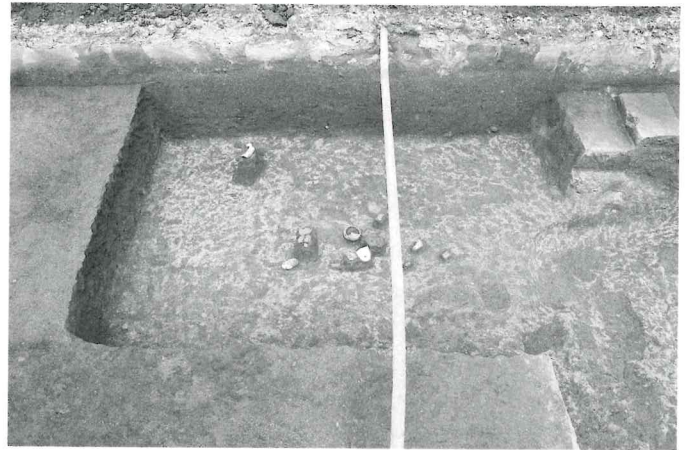
3号住居遺物出土状況全景 西から



3号住居掘り方全景 西から



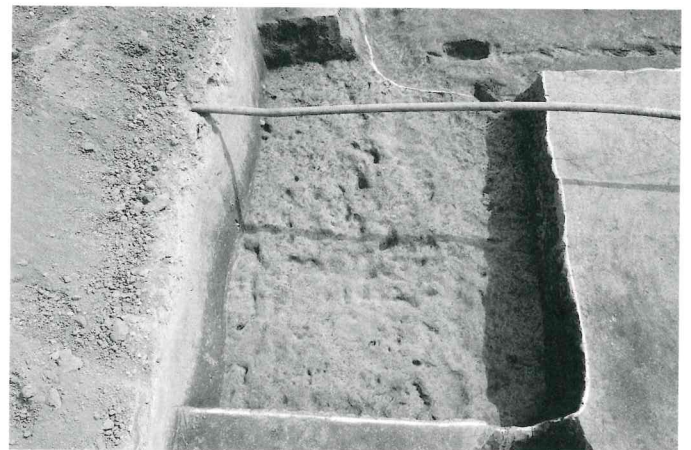
4号住居Aセクション 南から



4号住居遺物出土状況 南から



4号住居遺物No. 14 出土状況近景 西から



4号住居掘り方全景 西から



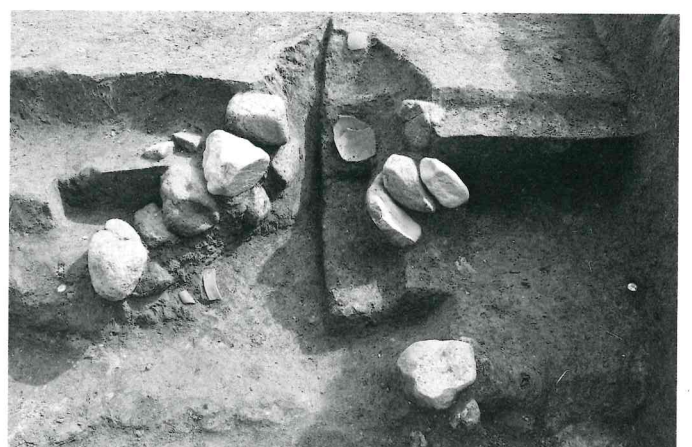
5号住居A・Bセクション 南から



5号住居東カマドCセクション 北から



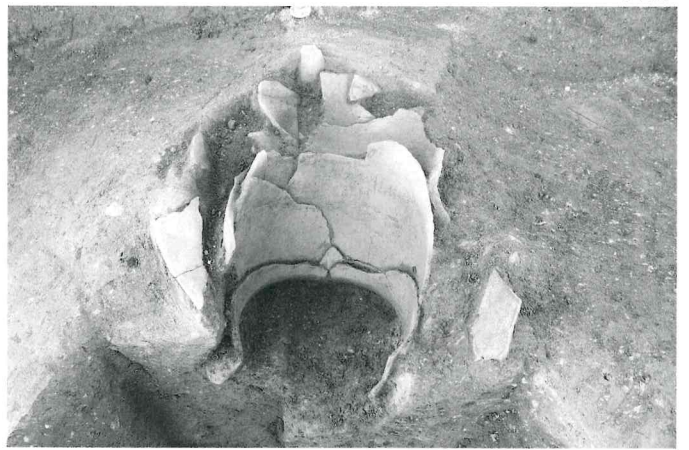
5号住居北カマドIセクション 西から



5号住居東カマド遺物出土状況 西から



5号住居北カマド遺物出土状況 南から



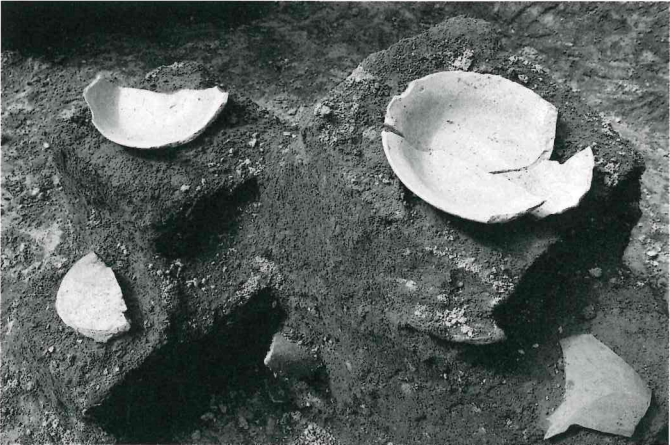
5号住居北カマド遺物No.15 出土状況 南から



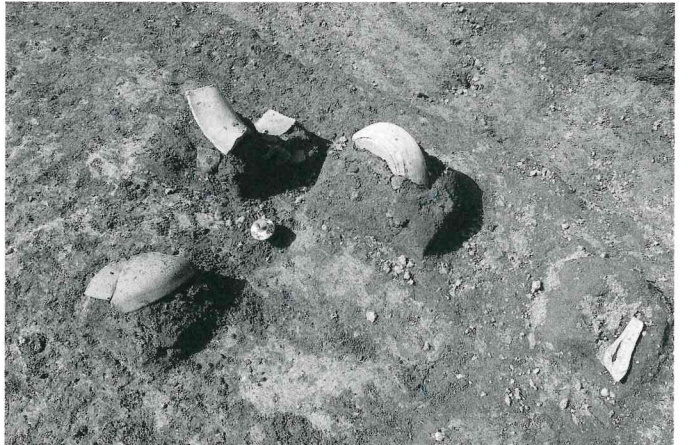
5号住居北カマド遺物No.17 出土状況 南から



5号住居遺物出土状況全景 西から



5号住居遺物No.23・28 出土状況 南から



5号住居遺物No.34 出土状況 南東から



5号住居全景 西から



5号住居全景 南東から



5号住居掘り方全景 西から



5号住居掘り方全景 南から



5号住居東カマド掘り方全景 西から



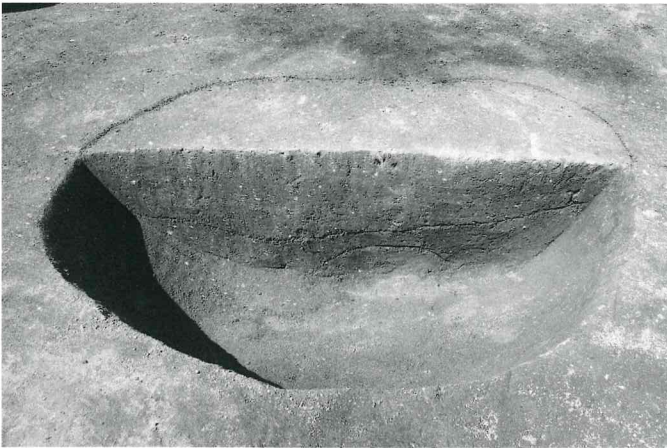
5号住居北カマド掘り方全景 南から



6号住居Aセクション 南から



6号住居全景 西から



1号土坑セクション 南から



4号土坑セクション 南から



7号土坑セクション及び遺物No. 38 出土状況 北から



16・17号土坑セクション 北から



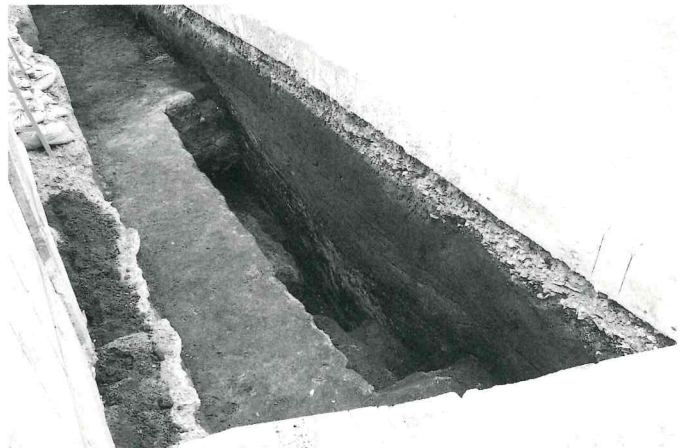
1～5・7～12号土坑全景 南西から



15号土坑全景 南から



1号溝状遺構 A セクション 南西から



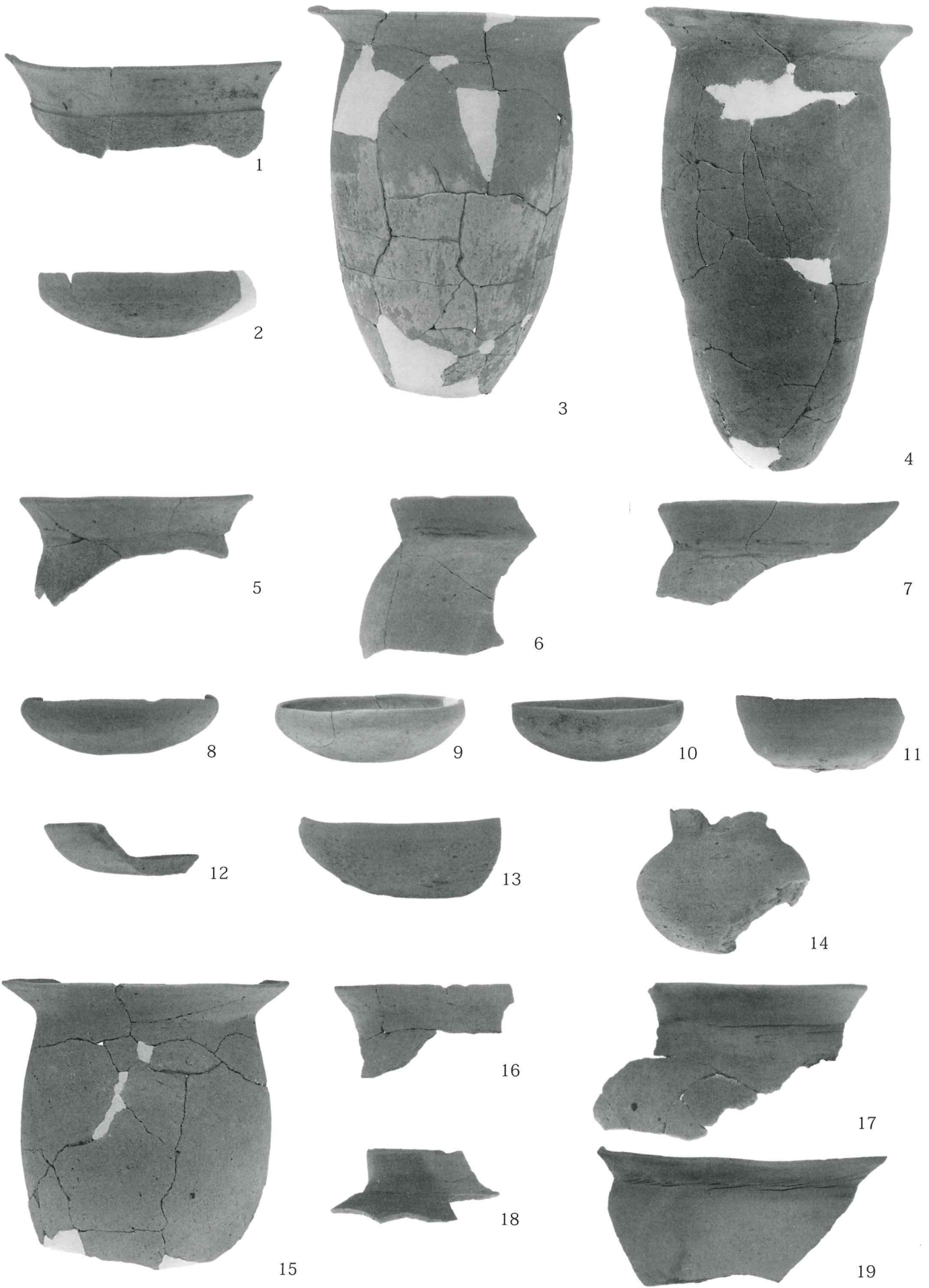
1号溝状遺構全景 南から



調査区全景 西から (手前は2号住居)



作業風景

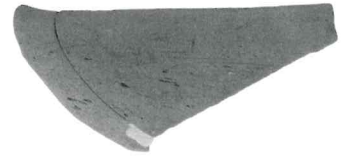




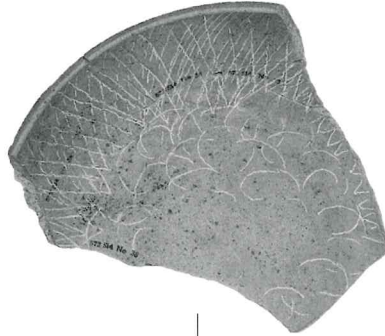
20



21



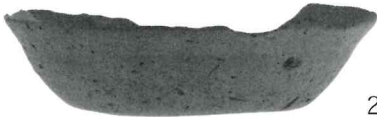
22



25



26



23



24



27



28



29



30



31



32



33



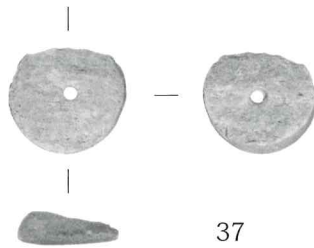
34



35



36



37



38

注：No. 23・24 の内面は白線を記入したままの撮影

参考文献

群馬県史編さん委員会 1990『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県

高崎市教育委員会 1998『高崎市遺跡分布図』高崎市内遺跡詳細分布調査報告書高崎市教育委員会

群馬町誌編纂委員会 1998『群馬町誌 資料編1 原始古代 中世』群馬町誌刊行委員会

高崎市市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市

高崎市市史編さん委員会 2000『新編 高崎市史 資料編2 原始古代II』高崎市

神谷 佳明・榑崎 修一郎 2003『菅谷石塚遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

田辺 芳昭 2008『棟高遺跡群（棟高水窪II・棟高辻の内IV遺跡）』高崎市教育委員会

田辺 芳昭 2013『棟高遺跡群1』高崎市教育委員会

報告書抄録

フリガナ	ムナタカミナミヤワタカイドウ イセキ
書名	棟高南八幡街道遺跡
副書名	宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第333集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒370-0005 群馬県高崎市浜尻町930番地6
発行年月日	2014年4月30日

所収遺跡名	棟高南八幡街道遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市棟高町字南八幡街道126番1、126番2、126番3、126番4 127番2、127番3						
市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	572	36°23'1"	139°0'2"	20130822	20131003	285.49㎡	宅地分譲

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
棟高南八幡街道遺跡	集落	古墳時代～奈良時代 平安時代以降	竪穴住居跡 土坑 溝状遺構 土坑	土師器 須恵器	8世紀前半代の人為的に埋め戻された竪穴住居跡

— 棟高南八幡街道遺跡 —

高崎市文化財調査報告書第 333 集

平成 26 年 4 月 25 日 印刷

平成 26 年 4 月 30 日 発行

編集・発行 有限会社 高澤考古学研究所

印刷・製本 上武印刷株式会社